

「田んぼの学校」実施報告書

2012年度

野川で遊ぶまちづくりの会

目次

1. 企画書	1
2. 実施計画・報告書	2
3. おたより	3 5
4. 会計報告	7 0
5. 参加者名簿	7 2
6. 参加者感想文集	7 4
7. 総括報告	1 0 5
8. 付録	1 0 7

1. 企画書

「田んぼの学校」

企画名：いのちの湧き水をみつめよう！！

野川で遊ぶまちづくりの会

都会の谷戸と湧き水の小川

東京の区部に隣接する調布市には多摩川の支流である野川が流れています。野川は府中崖線の湧き水を集めて流れる都会では貴重な清流です。その野川に府中崖線の谷戸から湧き出る水を源流とする小川（一部コンクリートによる用水路）があり、昔から、谷戸から野川までの川沿いに田んぼがありました。今でも田んぼを続ける農家があり、谷戸には雑木林があり、ホタルも飛ぶ都会では信じられないような環境が残っています。しかしながら、田んぼも減りつつあり、雑木林も手入れがされず、このままでは、この貴重な環境がなくなってしまう。

田んぼで遊び、学ぼう

私たちの会では、会の名前にあるとおり、野川で遊びながら、野川を子供達が遊べる（泳げる）川にするために、まちづくりの提言をしていこうという趣旨で活動（1991年2月発足、ホームページ：<http://nogawa-tanbo.sakura.ne.jp/>）しています。

野川の支流である小川（通称佐須用水）の清掃と生き物観察会をしているとき、会員の一人が田んぼをやらないかとつぶやいた一言がこの地で田んぼをやるきっかけになりました。何事も実践（遊ぶこと）からという私たちの活動にはぴったりの課題でした。野川のいのちはこの湧き水です。この湧き水がまた多くのいのちを育てているということ、体感できる田んぼはまさしく「田んぼの学校」でした。幸い、近くの農家に友人がおり、援農という形で、田んぼを始めることができました。それから21年、会員を中心に田んぼをやってきて、自分達だけでなんとかできるという自信がつくところまで来ました。これまでの積み重ねから、本企画の重要性は増しており、その必要性を再確認し、継続することにしました。本年も、この地域を保全するため、またよりよくするため、市民の方々に広く知っていただくために親子（子供は小中学生）参加者を公募し、広く市民に理解していただくことを目的に企画しました。具体的な内容は日程表をご参照下さい。

2. 実施計画・報告書

2012年日程表

No	プログラム名称	日付	曜日	開始時刻	終了時刻	作業・行事	課題	目的	内容	要領	準備
1		2月25日	水			「田んぼの学校」募集市報掲載					
2		3月20日	金			「田んぼの学校」募集市報掲載					
3	田んぼの学校	4月8日	日	10時	12時	◎「田んぼの学校」開校式 ◎説明会		当会の活動を理解してもらう。また、今後の心構えなどを話し合う。	参加者顔合わせ(自己紹介)、年間予定説明、名簿作成、質疑応答。	●開会の挨拶●説明会(当会の概要、年間日程、援農)●質疑応答●参加確認(多数の場合、抽選)●参加費徴収●種籾配布●開会の挨拶	●佐須ふれあいの家を借りる。
4	田んぼの学校	4月15日	日			種籾準備(水に浸ける)	種って何? どうして芽が出るの?	種の働きを理解する。	種籾を選別し、発芽させる。	●最初に薄い食塩水(新鮮な卵が浮く程度)に種籾をつけて、浮いた種籾を選り分ける(苗床の余ったところで蒔いてみるのもいい)。●一度洗って、きれいな水に浸ける。酸素を必要とするので1日に一回は水を取りかえる。●発芽したら、冷蔵保存(5から10℃)する。●種蒔の前日に発芽していない場合、風呂の残り湯(30℃以下)に	●参加者に一握りづつ分けるもち米の種籾を用意する●
5	田んぼの学校	4月21日	土	10時	15時	◎苗床作り		苗を育てる場所で、苗の生長に大きな影響がある。苗が順調に生長するための準備を十分にします。種蒔きの2週間前に苗床を作るのは、雑草を取り除くためである。	●苗を育てるための苗床を作る。	●田んぼの南側に幅1.2m、長さ12mくらいの広さの短冊畝つくる。土の塊は種籾より小さくなるように、大きなものを手ですりつぶす。●高さは他と同じにする。高くすると、乾燥しやすくなるため。●畝の両脇は7cmくらいの深さで水路を作り水を入れる。	●農協で100mのネットを購入する。●湿った土では土が固まりやすいので、乾燥した時でない苗床づくりはできない。天候によっては日程を変更する。●ただし、代掻きした苗床に種を蒔く方法もある。(直
6	田んぼの学校	4月22日	日	10時	12時	◎種まき	種籾の不思議にせまる	苗半作という言葉があり、昔から苗作りが大切であることをあらわしていた。	●種籾を蒔く。	●もち米と粳米の種籾を4、6の割合で、区別(もち米に粳米が混ざるともちにならない)して蒔く。●種籾は重ならない程度に密に蒔く。●薄く(5mmほど)土をかける。●かまぼこ状にネットをかける。	
7	田んぼの学校	4月29日	日	10時	13時	◎用水路清掃 ◎生き物観察	用水路には何がいます?	地域と用水路(佐須用水)の関わりを考える。なぜ、用水路にゴミを捨てるのか。	●佐須街道から野川までの佐須用水(本流)のゴミ拾いをする●同じところで、水棲動物を捕獲して観察会	●用水路に入り、ゴミ拾いをする。●ゴミは分別する。●空缶の中にはザリガニがいるので、捕獲する。●ゴミはリヤカーで集め、児童館裏に置かせてもらう。	●クリーンセンター、佐須児童館に連絡をする。
8	田んぼの学校	5月20日	日	10時	12時	◎堆肥入れ ◎荒起こし ◎畦草刈り ◎くろつけ準備	堆肥の養分は何? 田んぼの荒起こしをしているとなぜか鳥がやってくる?	雑木林から落ち葉を集め、鶏糞や糠、藁などで堆肥を作る有機農法は昔から普通に農家で行われたことを理解する。化学肥料との違いは何かを考える。	●堆肥を田んぼに均等に撒く●撒いた堆肥を耕運機で漕き込む●畦の草刈りをする。●刈った草は田んぼに撒く。●畦の際に水路を作り、水を引	●水路に堰を作り、田んぼに水を引き入れる●畦の際に水路を作る●畦に泥を塗り付ける分を畦から削る	
9	田んぼの学校	6月3日	日	10時	12時	くろつけ	くろつけは何のため?	くろつけは水漏れを防ぐ知恵である。今ではコンクリートなどで整備された田んぼがあるが、なにもなければ知恵が働くと言うことを学ぶ。	●畦に泥を塗り付ける。●	●取水口から一番遠いところからくろつけをする●水加減をしながら泥をこねて、畦の上部と壁面に5cmくらいの厚さで泥を塗る●くろつけが終わったら畦際の水路に水を引き入れ、くろが乾かないようにする	
10	田んぼの学校	6月10日	日	18時	20時	ホテル鑑賞会	ホテルはどこに棲む?	ホテルの生育できる環境を理解する。			
11	田んぼの学校	6月9日	土	10時	15時	◎苗取り ◎しろかき	しろかきは何のため?	くろつけが入れ物の縁とすると、しろかきが入れ物の底からの水漏れを防ぐ知恵である。昔から田んぼにしてきたところは底が粘土状になっている。	●苗代から苗を取り、わらで適量を束ねる。●取った苗は水に浸けておく。●田んぼに水を十分に入れ、耕運機で代掻きをする。●表面を水	●結束用のわらは、あらかじめ水にぬらしておく●結わえた苗の束は籠に入れて水に浸けておく●もち米と粳米の苗を絶対に混ぜない。●代掻きが終わる頃、水を止めると高低がわかる	●結束用のわら●籠を用意する
12	田んぼの学校	6月10日	日	10時	13時	田植え	丈夫に育て!	米作りで田植えは昔から村総出で行う大きなイベントであった。昔も今も神様に祈る気持ちは同じである。人ができる主なことはここで終わると言うこともある。	●田植えをする●南側にもち米を田んぼの四割くらい植える	●30cm間隔に印のついた縄(25m)を張り、印のついたところに植える。●縄は25cm間隔ですずらしていく。●苗を植える人は、植え終わったら一歩下がって自分の足跡をならす。●水は少な目に張る。	
13		6月17日	日			補植					
14	田んぼの学校	7月8日	日	10時	13時	◎一番草(草取り、根掻き) ◎畦草刈り ◎田んぼの生き物観察	田んぼに何がいます?	オタマジャクシ、ミジンコなど生き物でいっぱいになる田んぼでなにが起こっているか考える。			
15		8月23日	木	9時	12時	夏祭り準備			●テント張り●ちょうちん付け●やぐら紅白テープ巻き●掲示板設置●当会は焼き鳥の模擬店として参加する。		●備長炭15Kg2箱●ビニールバツク、ビニール袋、輪ゴム、アルミホイル●食材(串焼き鳥1日3000本、焼き鳥用タレ)●保温用ダン
16	田んぼの学校	8月24日	金	15時	21時	柏野夏祭り参加(焼き鳥)		地域の祭りに参加し、交流を図る。	●2000本の焼き鳥を焼いて、1本60円で販売する。	●焼き鳥は冷凍なので、開封して自然解凍する。●発泡ダンボールの箱で保存する。●タレは焼いた後1回だけ	
17	田んぼの学校	8月25日	土	15時	21時	柏野夏祭り参加(焼き鳥)		地域の祭りに参加し、交流を図る。	●2000本の焼き鳥を焼いて、1本60円で販売する。	●焼き鳥は冷凍なので、開封して自然解凍する。●発泡ダンボールの箱で保存する。●タレは焼いた後1回だけ	
18		8月26日	日	9時	12時	夏祭り片付け					
19	田んぼの学校	9月2日	日	10時	11時	田んぼ生き物観察	田んぼに何がいます?				
20	田んぼの学校	9月2日	日	11時	13時	カカシ作り	カカシって何してるの?	稲の穂に付いた籾をねらって鳥が来る。人も鳥も生きていることを考える。			
21	田んぼの学校	9月16日	日	9時	16時	親子炭焼きディキャンプ		炭焼きの実験を体験し、雑木林の役割を考える。			
22	田んぼの学校	10月6日	土	10時	12時	◎ハザ掛け準備 ◎稲刈り			●ハザ掛けをつくる(南北2列)●稲刈りはもち米から先にする●うるちと混ぜられないよう注意する	●ハザ掛けの足場を先に刈る●足は垂木3本1組として三脚を作る●三脚3組で1列とし、2列作る●梁は2段にする。2段目は釣り下げにする●梁の竹は細ければ2本組にする	●足になる垂木、3本1組、6組分●梁にする竹(10m)10本くらい●網掛け用竹棒(3m)15本くらい●鳥除け網40mくらい●荒縄(太)1巻●結束用稲わら
23	田んぼの学校	10月7日	日	10時	12時	◎稲刈り ◎レンゲ種まき	刈った稲を干すのはなぜ?	稲を干すのはなぜなのか考える。	鳥除けの網を張る。		
24	田んぼの学校	10月21日	日	10時	12時	脱穀			●稲穂から種籾を取る●来年の種籾を確保する。		佐須地区の共同脱穀機(自走式)を借り、田んぼへ移動する。
25	田んぼの学校	11月4日	日	10時	16時	籾摺り			●種籾から籾殻を取る		●籾摺り機●モーター●みの●米袋10枚

2012年日程表

No	プログラム名称	日付	曜日	開始時刻	終了時刻	作業・行事	課題	目的	内容	要領	準備
26	田んぼの学校	11月11日	日	10時	14時	精米	玄米、胚芽米、精米の違いは何？	一粒の米に託されたものを考える。	●佐須地区共同小屋で精米する。● ●籾米は7分くらいにする。	●	●佐須地区の共同精米所にて行う。 ●カギは当番のところで借りる。 ●精米費は30Kg200円？を会計担当に支払う。(領収書無しです。) ●カギと、会計の担当は竹内さんに確認する。●みの
27	田んぼの学校	11月23日	金	10時	15時	収穫祭(餅つき、豚汁)	お米を作ったのは誰？	お米作りを通して、人と自然の役割を考える。			2000年に臼と杵は知人より入手した。かまと、せいは八雲台幼稚園の小林さんか佐須児童館で借り
28	田んぼの学校	12月9日	日	10時	12時	落ち葉拾い(堆肥作り)	雑木林って何？	雑木林の役割を考える。	カニ山で落ち葉を集め、田んぼにベニヤ板で囲った堆肥置き場に積む。その時、米糠と鶏糞を混ぜ、水を十分にかけ、シートをかぶせる。		米糠(自前の米糠が約20Kg、他に山田屋お米館で有機栽培米糠3袋(15Kg×3)を購入する。また、農協(神代支店)で鶏糞2袋(10Kg×2)を購入する。
29	田んぼの学校	12月9日	日	13時	15時	しめ縄作り	しめ縄の由来は？	お米作りとしめ縄の関係は？	しめ縄も稲藁の利用の一つです。		佐須ふれあいの家を使用
30	田んぼの学校	1月12日	土	11時	13時	佐須地区どんど焼き	どんど焼きってなに？	地域に根づいている行事に関心を持ち、生活との関わりを学ぶ。	佐須地区どんど焼きにて餅つきを手伝う	●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。 ●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。 ●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。	
31	田んぼの学校	1月13日	日	10時	12時	堆肥切り返し		堆肥発酵促進	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。	●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。 ●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。 ●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。	
32	田んぼの学校	2月3日	日	10時	12時	堆肥切り返し		堆肥発酵促進	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。	●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。 ●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。 ●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。	
33	田んぼの学校	2月3日	日	13時	15時	縄織い、草鞋づくり	昔の人は稲藁でさまざまな生活に必要なものを作っていました。そのひとつが縄です。今年から草鞋作りも行います。	稲藁を使って縄を織うことを通して先人の知恵を学ぶ。	稲藁を使った縄織い。		佐須ふれあいの家を使用
34	田んぼの学校	3月10日	日	10時	12時	堆肥切り返し		堆肥発酵促進	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。	●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。 ●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。 ●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。	
35	田んぼの学校	3月10日	日	12時	15時	「田んぼの学校」卒業式(反省会)	米づくりを終えて	この1年で考えたこと、学んだことを確認する。	●軽食を取りながら行う。●●		佐須ふれあいの家を使用

野川で遊ぶまちづくりの会

作成日2016/4/1718:55

プログラム名称	日付	曜日	開始時刻	終了時刻	作業・行事	用具	服装・装備	担当者	備考
	2月25日	水			「田んぼの学校」募集市報掲載			市報で参加者募集	
	3月20日	金			「田んぼの学校」募集市報掲載			市報で参加者募集	
田んぼの学校	4月8日	日	10時	12時	◎「田んぼの学校」開校式 ◎説明会				
田んぼの学校	4月15日	日			種籾準備(水に浸ける)				
田んぼの学校	4月21日	土	10時	15時	◎苗床作り				
田んぼの学校	4月22日	日	10時	12時	◎種まき	ネット、ネットフレーム(20本)、ふるい			
田んぼの学校	4月29日	日	10時	13時	◎水路清掃 ◎生き物観察	●ゴミ袋、リヤカー、軍手●水槽、水棲動物用捕獲網		講師:平井氏(043-383-3468、03-3666-3327)	
田んぼの学校	5月20日	日	10時	12時	◎堆肥入れ ◎荒起こし ◎畦草刈り ◎くろつけ準備				
田んぼの学校	6月3日	日	10時	12時	くろつけ				
田んぼの学校	6月10日	日	18時	20時	ホテル鑑賞会				
田んぼの学校	6月9日	土	10時	15時	◎苗取り ◎しろかき				
田んぼの学校	6月10日	日	10時	13時	田植え				
	6月17日	日			補植				
田んぼの学校	7月8日	日	10時	13時	◎一番草(草取り、根掻き) ◎畦草刈り ◎田んぼの生き物観察			講師:平井氏(042-383-3468、03-3666-3327)	
	8月23日	木	9時	12時	夏祭り準備			柏野夏祭り準備	
田んぼの学校	8月24日	金	15時	21時	柏野夏祭り参加(焼き鳥)				
田んぼの学校	8月25日	土	15時	21時	柏野夏祭り参加(焼き鳥)				
	8月26日	日	9時	12時	夏祭り片付け			柏野夏祭り(片づけ)	
田んぼの学校	9月2日	日	10時	11時	田んぼ生き物観察				
田んぼの学校	9月2日	日	11時	13時	カカシ作り				
田んぼの学校	9月16日	日	9時	16時	親子炭焼きディキャンプ				
田んぼの学校	10月6日	土	10時	12時	◎ハザ掛け準備 ◎稲刈り				
田んぼの学校	10月7日	日	10時	12時	◎稲刈り ◎レンゲ種まき				
田んぼの学校	10月21日	日	10時	12時	脱穀				
田んぼの学校	11月4日	日	10時	16時	籾摺り				

野川で遊ぶまちづくりの会

作成日2016/4/1718:55

プログラム名称	日付	曜日	開始時刻	終了時刻	作業・行事	用具	服装・装備	担当者	備考
田んぼの学校	11月11日	日	10時	14時	精米				
田んぼの学校	11月23日	金	10時	15時	収穫祭(餅つき、豚汁)				
田んぼの学校	12月9日	日	10時	12時	落ち葉拾い(堆肥作り)				
田んぼの学校	12月9日	日	13時	15時	しめ縄作り				
田んぼの学校	1月12日	土	11時	13時	佐須地区どんど焼き	くい打ち用木製ハンマー、フォーク、バケツ	作業着、軍手、長靴		
田んぼの学校	1月13日	日	10時	12時	堆肥切り返し				
田んぼの学校	2月3日	日	10時	12時	堆肥切り返し				
田んぼの学校	2月3日	日	13時	15時	縄織い、草鞋づくり				
田んぼの学校	3月10日	日	10時	12時	堆肥切り返し				
田んぼの学校	3月10日	日	12時	15時	「田んぼの学校」卒業式(反省会)				

「野川で遊ぶまちづくりの会」
「田んぼの学校」2012年度日程表

時限	日付	曜日	開始時刻	終了時刻	作業・行事	課題	目的	備考
1	4月8日	日	10時	12時	◎「田んぼの学校」開校式◎ 説明会		当会の活動を理解してもらおう。また、今後の心構えなどを話し合う。	
2	4月15日	日			種籾準備(水に浸ける)	種って何? どうして芽が出るの?	種の働きを理解する。	
3	4月21日	土	10時	15時	◎苗床作り		苗を育てる場所で、苗の生長に大きな影響がある。苗が順調に生長するための準備を十分に。種蒔きの2週間前に苗床を作るのは、雑草を取り除くためである。	
4	4月22日	日	10時	12時	◎種まき	種籾の不思議にせまる	苗半作という言葉があり、昔から苗作りが大切であることをあらわしていた。	
5	4月29日	日	10時	13時	◎用水路清掃 ◎生き物観察	用水路には何がいます?	地域と用水路(佐須用水)の関わりを考える。なぜ、用水路にゴミを捨てるのか。	
6	5月20日	日	10時	12時	◎堆肥入れ ◎荒起こし ◎畦草刈り ◎くろつけ準備	堆肥の養分は何? 田んぼの荒起こしをしているとなぜか鳥がやってくる?	雑木林から落ち葉を集め、鶏糞や糠、藁などで堆肥を作る有機農法は昔から普通に農家で行われたことを理解する。化学肥料との違いは何かを考える。	
7	6月3日	日	10時	12時	くろつけ	くろつけは何のため?	くろつけは水漏れを防ぐ知恵である。今ではコンクリートなどで整備された田んぼがあるが、なにもなければ知恵が働くと言うことを学ぶ。	
8	6月10日	日	18時	20時	ホタル鑑賞会	ホタルはどこに棲む?	ホタルの生育できる環境を理解する。	
9	6月9日	土	10時	15時	◎苗取り ◎しろかき	しろかきは何のため?	くろつけが入れ物の縁とすると、しろかきは入れ物の底からの水漏れを防ぐ知恵である。昔から田んぼにしてきたところは底が粘土状になっている。	
10	6月10日	日	10時	13時	田植え	丈夫に育て!	米作りで田植えは昔から村総出で行う大きなイベントであった。昔も今も神様に祈る気持ちは同じである。人ができる主なことはここで終わると言うこともある。	
11	7月8日	日	10時	13時	◎一番草(草取り、根掻き) ◎畦草刈り ◎田んぼの生き物観察	田んぼに何がいます?	オタマジャクシ、ミジンコなど生き物でいっぱいになる田んぼでなにが起こっているか考える。	
12	8月23日	木	9時	12時	夏祭り準備			
12	8月24日	金	15時	21時	柏野夏祭り参加(焼き鳥)		地域の祭りに参加し、交流を図る。	
12	8月25日	土	15時	21時	柏野夏祭り参加(焼き鳥)		地域の祭りに参加し、交流を図る。	
12	8月26日	日	9時	12時	夏祭り片付け			
13	9月2日	日	10時	11時	田んぼ生き物観察	田んぼに何がいます?		
14	9月2日	日	11時	13時	力カシ作り	力カシって何してるの?	稲の穂に付いた籾をねらって鳥が来る。人も鳥も生きていることを考える。	
15	9月16日	日	9時	16時	親子炭焼きディキャンプ		炭焼きの実践を体験し、雑木林の役割を考える。	

「野川で遊ぶまちづくりの会」
「田んぼの学校」2012年度日程表

時限	日付	曜日	開始時刻	終了時刻	作業・行事	課題	目的	備考
15	10月6日	土	10時	12時	◎ハザ掛け準備 ◎稲刈り			
16	10月7日	日	10時	12時	◎稲刈り ◎レンゲ種まき	刈った稲を干すのはなぜ？	稲を干すのはなぜなのか考える。	
17	10月21日	日	10時	12時	脱穀			
18	11月4日	日	10時	16時	粃摺り			
19	11月11日	日	10時	14時	精米	玄米、胚芽米、精米の違いは何？	一粒の米に託されたものを考える。	
20	11月23日	金	10時	15時	収穫祭(餅つき、豚汁)	お米を作ったのは誰？	お米作りを通して、人と自然の役割を考える。	
21	12月9日	日	10時	12時	落ち葉拾い(堆肥作り)	雑木林って何？	雑木林の役割を考える。	
22	12月9日	日	13時	15時	しめ縄作り	しめ縄の由来は？	お米作りとしめ縄の関係は？	
23	1月12日	土	11時	13時	佐須地区どんど焼き	どんど焼きってなに？	地域に根づいている行事に関心を持ち、生活との関わり	
24	1月13日	日	10時	12時	堆肥切り返し		堆肥発酵促進	
25	2月3日	日	10時	12時	堆肥切り返し		堆肥発酵促進	
26	2月3日	日	13時	15時	縄織い、草鞋づくり	昔の人は稲藁でさまざまな生活に必要なものを作ってきました。そのひとつが縄です。今年から草鞋作りも行い	稲藁を使って縄を織うことを通して先人の知恵を学ぶ。	
27	3月10日	日	10時	12時	堆肥切り返し		堆肥発酵促進	
28	3月10日	日	12時	15時	「田んぼの学校」卒業式(反省会)	米づくりを終えて	この1年で考えたこと、学んだことを確認する。	

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	4月8日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	4月8日	(日)	開始時刻	10時	終了時刻	12時
作業:	◎「田んぼの学校」開校式◎説明会					
課題:						
目的:	当会の活動を理解してもらう。また、今後の心構えなどを話し合う。					
内容:	参加者顔合わせ(自己紹介)、年間予定説明、名簿作成、質疑応答。					
要領:	●開会の挨拶●説明会(当会の概要、年間日程、援農)●質疑応答●参加確認(多数の場合、抽選)●参加費徴収●種粃配布●閉会の挨拶					
準備:	●佐須ふれあいの家を借りる。					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:今江、内田、大野、鬼弦、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、藤井、牧島					
	開始時刻	10時		終了時刻	12時	
	実施内容:開校式を実施。					
						
	留意事項:					
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	4月15日	日	開始時刻		終了時刻	
実施日	4月15日	(日)	開始時刻		終了時刻	
作業:	種粃準備(水に浸ける)					
課題:	種って何? どうして芽が出るの?					
目的:	種の働きを理解する。					
内容:	種粃を選別し、発芽させる。					
要領:	<ul style="list-style-type: none"> ●最初に薄い食塩水(新鮮な卵が浮く程度)に種粃をつけて、浮いた種粃を選り分ける(苗床の余ったところで蒔いてみるのもいい)。 ●一度洗って、きれいな水に浸ける。酸素を必要とするので1日に一回は水を取りかえる。 ●発芽したら、冷蔵保存(5から10℃)する。 ●種蒔の前日に発芽していない場合、風呂の残り湯(30℃以下)につけ 					
準備:	●参加者に一握りずつ分けるもち米の種粃を用意する●					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和					
	参加者名:今江、内田、大野、鬼弦、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、藤井、牧島					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:自宅において、種粃の芽だしを実施。					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
備考:	留意事項:					
	----- ----- -----					

プログラムマニュアル												
プログラム名称:	田んぼの学校											
実施予定日	4月21日	土	開始時刻	10時	終了時刻	15時						
実施日	4月21日	(土)	開始時刻	10時	終了時刻	15時						
作業:	◎苗床作り											
課題:												
目的:	苗を育てる場所で、苗の生長に大きな影響がある。苗が順調に生長するための準備を十分に作る。種蒔きの2週間前に苗床を作るのは、雑草を取り除くためである。											
内容:	●苗を育てるための苗床を作る。											
要領:	●田んぼの南側に幅1.2m、長さ12mくらいの広さの短冊畝つくる。土の塊は種籾より小さくなるように、大きなものを手ですりつぶす。●高さは他と同じにする。高くすると、乾燥しやすくなるため。●畝の両脇は7cmくらいの深さで水路を作り水を入れる。											
準備:	●農協で100mのネットを購入する。●湿った土では土が固まりやすいので、乾燥した時でないと苗床づくりはできない。天候によっては日程を変更する。●ただし、代掻きした苗床に種を蒔く方法もある。(直播きに近い)											
用具:												
服装・装備:												
担当者:												
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子											
	参加者名:今江、内田、大野、鬼弦、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、藤井、牧島											
	開始時刻	10時	終了時刻	15時								
	実施内容:苗床の作成、草刈り											
												
							留意事項:					
備考:												

プログラムマニュアル												
プログラム名称:		田んぼの学校										
実施予定日	4月22日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時						
実施日	4月22日	(日)	開始時刻	10時	終了時刻	12時						
作業:	◎種まき											
課題:	種籾の不思議にせまる											
目的:	苗半作という言葉があり、昔から苗作りが大切であることをあらわしていた。											
内容:	●種籾を蒔く。											
要領:	●もち米と粳米の種籾を4, 6の割合で、区別(もち米に粳米が混ざるともちにならない)して蒔く。●種籾は重ならない程度に密に蒔く。●薄く(5mmほど)土をかける。●かまぼこ状にネットをかける。											
準備:												
用具:	ネット、ネットフレーム(20本)、ふるい											
服装・装備:												
担当者:												
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子											
	参加者名:今江、内田、大野、鬼弦、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、藤井、牧島											
	開始時刻	10時			終了時刻	12時						
	実施内容:種まきを実施。苗床まで水路を作り、水を引く。寒冷紗で取りよけとする。											
												
							留意事項:					
備考:												

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	4月29日	日	開始時刻	10時	終了時刻	13時
実施日	4月29日	(日)	開始時刻	10時	終了時刻	13時
作業:	◎用水路清掃 ◎生き物観察					
課題:	用水路には何がいますか？					
目的:	地域と用水路(佐須用水)の関わりを考える。なぜ、用水路にゴミを捨てるのか。					
内容:	●佐須街道から野川までの佐須用水(本流)のゴミ拾いをする●同じところで、水棲動物を捕獲して観察会を行う。					
要領:	●用水路に入り、ゴミ拾いをする。●ゴミは分別する。●空缶の中にはザリガニがいるので、捕獲する。●ゴミはリヤカーで集め、児童館裏に置かせてもらう。					
準備:	●クリーンセンター、佐須児童館に連絡をする。					
用具:	●ゴミ袋、リヤカー、軍手●水槽、水棲動物用捕獲網					
服装・装備:						
担当者:	講師:平井氏(043-383-3468、03-3666-3327)					
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:今江、内田、大野、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、広瀬、藤井、牧島					
	開始時刻	10時	終了時刻	13時		
	実施内容:佐須用水路でゴミ拾いを実施。用水路の生き物観察も実施。					
						
留意事項:						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	5月20日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	5月20日	(日)	開始時刻	10時	終了時刻	12時
作業:	◎堆肥入れ ◎荒起こし					
課題:	堆肥の養分は何？ 田んぼの荒起こしをしているとなぜか鳥がやってくる？					
目的:	雑木林から落ち葉を集め、鶏糞や糠、藁などで堆肥を作る有機農法は昔から普通に農家で行われたことを理解する。化学肥料との違いは何かを考える。					
内容:	●堆肥を田んぼに均等に撒く●撒いた堆肥を耕運機で漉き込む●畦の草刈りをする。●刈った草は田んぼに撒く。●畦の際に水路を作り、水を引く。					
要領:	●水路に堰を作り、田んぼに水を引き入れる●畦の際に水路を作る●畦に泥を塗り付ける分を畦から削る					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:今江、内田、大野、鬼弦、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、広瀬、藤井、牧島					
	開始時刻	10時			終了時刻	12時
	実施内容:荒起こしを行った。					
						
留意事項:						
備考:						

プログラムマニュアル												
プログラム名称:	田んぼの学校											
実施予定日	6月3日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時						
実施日	6月3日	(日)	開始時刻	10時	終了時刻	12時						
作業:	くろつけ											
課題:	くろつけは何のため?											
目的:	くろつけは水漏れを防ぐ知恵である。今ではコンクリートなどで整備された田んぼがあるが、なにもなければ知恵が働くということを学ぶ。											
内容:	●畦に泥を塗りつける。●											
要領:	●取水口から一番遠いところからくろつけをする●水加減をしながら泥をこねて、畦の上部と壁面に5cmくらいの厚さで泥を塗る●くろつけが終わったら畦際の水路に水を引き入れ、くろが乾かないようにする											
準備:												
用具:												
服装・装備:												
担当者:												
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子											
	参加者名:今江、内田、大野、鬼弦、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、広瀬、藤井、牧島											
	開始時刻	10時	終了時刻	12時								
	実施内容:くろつけを行った。											
												
							留意事項:					
備考:												

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	6月10日	日	開始時刻	18時	終了時刻	20時
実施日	6月3日	(日)	開始時刻	18時	終了時刻	20時
作業:	ホテル鑑賞会					
課題:	ホテルはどこに棲む？					
目的:	ホテルの生育できる環境を理解する。					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:(予定)今江、内田、大野、鬼弦、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、広瀬、藤井、牧島					
	開始時刻	18時			終了時刻	20時
	実施内容:今年、例年より早く蛍が飛びました。自由参加で実施しました。					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
備考:	留意事項: ----- ----- -----					

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	6月9日	土	開始時刻	10時	終了時刻	15時
実施日	6月10日	(日)	開始時刻	10時	終了時刻	15時
作業:	◎苗取り ◎しろかき					
課題:	しろかきは何のため?					
目的:	くろつけが入れ物の縁とすると、しろかきは入れ物の底からの水漏れを防ぐ知恵である。昔から田んぼにしてきたところは底が粘土状になっている。					
内容:	●苗代から苗を取り、わらで適当な量を束ねる。●取った苗は水に浸けておく。●田んぼに水を十分に入れ、耕運機で代掻きをする。●表面を水平にならす。					
要領:	●結束用のわらは、あらかじめ水にぬらしておく●結わえた苗の束は籠に入れて水に浸けておく●もち米と粳米の苗を絶対に混ぜない。●代掻きが終わる頃、水を止めると高低がわかる					
準備:	●結束用のわら●籠を用意する					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:今江、内田、大野、鬼弦、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、広瀬、藤井、牧島					
	開始時刻	10時			終了時刻	15時
実施内容:前日は雨で中止になりました。苗取り、代かきを実施しました。						
						
留意事項:						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	6月10日	日	開始時刻	10時	終了時刻	13時
実施日	6月17日	(日)	開始時刻	13時	終了時刻	15時
作業:	田植え					
課題:	丈夫に育て!					
目的:	米作りで田植えは昔から村総出で行う大きなイベントであった。昔も今も神様に祈る気持ちは同じである。人ができる主なことはここで終わると言うこともある。					
内容:	●田植えをする●南側にもち米を田んぼの四割くらい植える					
要領:	●30cm間隔に印のついた縄(25m)を張り、印のついたところに植える。●縄は25cm間隔でずらしていく。●苗を植える人は、植え終わったら一步下がって自分の足跡をならす。●水は少な目に張る。					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:今江、内田、大野、鬼弦、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、広瀬、藤井、牧島					
	開始時刻	13時	終了時刻	15時		
	実施内容:雨天のため、午後から実施しました。					
						
	留意事項:					
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:						
実施予定日	6月17日	日	開始時刻		終了時刻	
実施日	6月29日	(金)	開始時刻	10時	終了時刻	11時
作業:	補植					
課題:						
目的:						
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:					
	開始時刻	10時			終了時刻	11時
	実施内容:スタッフにより実施しました。					

留意事項:	-----					

備考:						

プログラムマニュアル												
プログラム名称:	田んぼの学校											
実施予定日	7月8日	日	開始時刻	10時	終了時刻	13時						
実施日	7月8日	(日)	開始時刻	10時	終了時刻	13時						
作業:	◎一番草(草取り、根掻き) ◎畦草刈り											
課題:	田んぼに何がいます?											
目的:	オタマジャクシ、ミジンコなど生き物でいっぱいになる田んぼでなにが起こっているか考える。											
内容:												
要領:												
準備:												
用具:												
服装・装備:												
担当者:	講師:平井氏(042-383-3468、03-3666-3327)											
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子											
	参加者名:今江、内田、大野、鬼弦、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、広瀬、藤井、牧島											
	開始時刻	10時	終了時刻	12時								
	実施内容:田んぼのいきもの観察と草取りを行った。											
												
							留意事項:					
備考:												

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:						
実施予定日	8月23日	木	開始時刻	9時	終了時刻	12時
実施日	8月23日	(木)	開始時刻	9時	終了時刻	12時
作業:	夏祭り準備					
課題:						
目的:						
内容:	●テント張り●ちょうちん付け●やぐら紅白テープ巻き●掲示板設置●当会は焼き鳥の模擬店として参加する。					
要領:						
準備:	●備長炭15Kg2箱●ビニールパック、ビニール袋、輪ゴム、アルミホイール●食材(串焼き鳥1日3000本、焼き鳥用タレ)●保温用ダンボールケース					
用具:						
服装・装備:						
担当者:	柏野夏祭り準備					
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:					
	開始時刻	9時			終了時刻	12時
	実施内容:スタッフのみ参加					

留意事項:						

備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	8月24日	金	開始時刻	15時	終了時刻	21時
実施日	8月24日	(金)	開始時刻	15時	終了時刻	21時
作業:	柏野夏祭り参加(焼き鳥)					
課題:						
目的:	地域の祭りに参加し、交流を図る。					
内容:	●2000本の焼き鳥を焼いて、1本60円で販売する。					
要領:	●焼き鳥は冷凍なので、開封して自然解凍する。●発泡ダンボールの箱で保存する。 ●タレは焼いた後1回だけ付ける●					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:今江、内田、大野、田原、富樫、時安、沼田、林、平井、藤井、牧島					
	開始時刻	15時			終了時刻	21時
	実施内容:焼き鳥を焼いて、2200本販売した。					

留意事項:	-----					

備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	8月25日	土	開始時刻	15時	終了時刻	21時
実施日	8月25日	(土)	開始時刻	15時	終了時刻	21時
作業:	柏野夏祭り参加(焼き鳥)					
課題:						
目的:	地域の祭りに参加し、交流を図る。					
内容:	●2000本の焼き鳥を焼いて、1本60円で販売する。					
要領:	●焼き鳥は冷凍なので、開封して自然解凍する。●発泡ダンボールの箱で保存する。 ●タレは焼いた後1回だけ付ける●					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:今江、内田、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、牧島					
	開始時刻	15時			終了時刻	21時
	実施内容:焼き鳥を焼いて、2400本販売した。					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
	留意事項: ----- ----- ----- -----					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:						
実施予定日	8月26日	日	開始時刻	9時	終了時刻	12時
実施日	8月26日	(日)	開始時刻	9時	終了時刻	12時
作業:	夏祭り片付け					
課題:						
目的:						
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:	柏野夏祭り(片づけ)					
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:今江、内田、大野、鬼弦、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、広瀬、藤井、牧島					
	開始時刻	9時			終了時刻	12時
	実施内容:スタッフのみ参加					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
留意事項:	----- ----- ----- -----					
	----- ----- -----					
	----- -----					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	9月2日	日	開始時刻	11時	終了時刻	13時
実施日	9月9日	(日)	開始時刻	11時	終了時刻	13時
作業:	カカシ作り					
課題:	カカシって何してるの？					
目的:	稲の穂に付いた糶をねらって鳥が来る。人も鳥も生きていることを考える。					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:今江、内田、大野、鬼弦、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、広瀬、藤井、牧島					
	開始時刻	11時			終了時刻	13時
	実施内容:各自持ち寄った材料で案山子を作った。					
						
	留意事項:					
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	10月6日	土	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	10月13日	(土)	開始時刻	13時	終了時刻	15時
作業:	◎ハザ掛け準備 ◎稲刈り					
課題:						
目的:						
内容:	●ハザ掛けをつくる(南北2列)●稲刈りはもち米から先にする●うるちと混ざらないように注意する。					
要領:	●ハザ掛けの足場を先に刈る●足は垂木3本1組として三脚を作る●三脚3組で1列とし、2列作る●梁は2段にする。2段目は釣り下げにする●梁の竹は細ければ2本組にする					
準備:	●足になる垂木、3本1組、6組分●梁にする竹(10m)10本くらい●網掛け用竹棒(3m)15本くらい●鳥除け網40mくらい●荒縄(太)1巻●結束用稲わら					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:今江、内田、大野、鬼弦、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、広瀬、藤井、牧島					
	開始時刻	13時	終了時刻	15時		
	実施内容:午後からうるち米の刈り取りを行った。					
						
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	10月7日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	10月14日	(日)	開始時刻	10時	終了時刻	12時
作業:	◎稲刈り ◎レンゲ種まき					
課題:	刈った稲を干すのはなぜ?					
目的:	稲を干すのはなぜなのか考える。					
内容:	鳥除けの網を張る。					
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:今江、内田、大野、鬼弦、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、広瀬、藤井、牧島					
	開始時刻	10時			終了時刻	12時
	実施内容:昨日に引き続き、餅米を刈り取った。					
						
	留意事項:					
備考:						

プログラムマニュアル												
プログラム名称:		田んぼの学校										
実施予定日	10月21日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時						
実施日	10月27日	(土)	開始時刻	10時	終了時刻	12時						
作業:	脱穀											
課題:												
目的:												
内容:	●稲穂から種籾を取る●来年の種籾を確保する。											
要領:												
準備:	佐須地区の共同脱穀機(自走式)を借り、田んぼへ移動する。											
用具:												
服装・装備:												
担当者:												
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子											
	参加者名:今江、内田、大野、鬼弦、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、広瀬、藤井、牧島											
	開始時刻	10時			終了時刻	12時						
	実施内容:うるち米、もち米を脱穀した。											
												
							留意事項:					
備考:												

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	11月4日	日	開始時刻	10時	終了時刻	16時
実施日	11月4日	(日)	開始時刻	10時	終了時刻	16時
作業:	粃摺り					
課題:						
目的:						
内容:	●種粃から粃殻を取る					
要領:						
準備:	●粃摺り機 ●モーター ●みの ●米袋10枚					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:今江、内田、大野、鬼弦、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、広瀬、藤井、牧島					
	開始時刻	10時	終了時刻	12時		
	実施内容:新しく購入した粃摺り機で粃摺りを行った。					
						
	留意事項:					
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	11月11日	日	開始時刻	10時	終了時刻	14時
実施日	11月18日	(日)	開始時刻	10時	終了時刻	12時
作業:	精米					
課題:	玄米、胚芽米、精米の違いは何？					
目的:	一粒の米に託されたものを考える。					
内容:	●佐須地区共同小屋で精米する。●粳米は7分くらいにする。					
要領:	●					
準備:	●佐須地区の共同精米所にて行う。●カギは当番のところで借りる。●精米費は30Kg200円？を会計担当に支払う。(領収書無しです。)●カギと、会計の担当は竹内さんに確認する。●みの					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:今江、内田、大野、鬼弦、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、広瀬、藤井、牧島					
	開始時刻	10時			終了時刻	12時
	実施内容:購入した粳摺り機(精米も可)で精米を行った。					
						
留意事項:						
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	11月23日	金	開始時刻	10時	終了時刻	15時
実施日	11月25日	(日)	開始時刻	10時	終了時刻	15時
作業:	収穫祭(餅つき、豚汁)					
課題:	お米を作ったのは誰?					
目的:	お米作りを通して、人と自然の役割を考える。					
内容:						
要領:						
準備:	2000年に臼と杵は知人より入手した。かまどと、せいろは八雲台幼稚園の小林さんか佐須児童館で借りる。					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:今江、内田、大野、鬼弦、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、広瀬、藤井、牧島					
	開始時刻	10時	終了時刻	15時		
	実施内容:収穫祭を行いました。					
						
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	12月9日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	中止		開始時刻		終了時刻	
作業:	落ち葉拾い(堆肥作り)					
課題:	雑木林って何?					
目的:	雑木林の役割を考える。					
内容:	カニ山で落ち葉を集め、田んぼにベニヤ板で囲った堆肥置き場に積む。その時、米糠と鶏糞を混ぜ、水を十分にかけて、シートをかぶせる。					
要領:						
準備:	米糠(自前の米糠が約20Kg、他に山田屋お米館で有機栽培米糠3袋(15Kg×3)を購入する。また、農協(神代支店)で鶏糞2袋(10Kg×2)を購入する。					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					

備考:	留意事項:					

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	9月16日	日	開始時刻	9時	終了時刻	16時
実施日	12月16日	(日)	開始時刻	9時	終了時刻	16時
作業:	親子炭焼きディキャンプ					
課題:						
目的:	炭焼きの実践を体験し、雑木林の役割を考える。					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:今江、内田、大野、鬼弦、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、広瀬、藤井、牧島					
	開始時刻	9時			終了時刻	16時
	実施内容:カニ山でディキャンプを実施しました。					
						
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	12月9日	日	開始時刻	13時	終了時刻	15時
実施日	12月16日	(日)	開始時刻	13時	終了時刻	15時
作業:	しめ縄作り					
課題:	しめ縄の由来は？					
目的:	お米作りとしめ縄の関係は？					
内容:	しめ縄も稲藁の利用の一つです。					
要領:						
準備:	佐須ふれあいの家を使用					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:今江、内田、大野、鬼弦、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、広瀬、藤井、牧島					
	開始時刻	13時			終了時刻	14時
	実施内容:ディキャンプでしめ縄作りをしました。					
						
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	1月12日	土	開始時刻	11時	終了時刻	13時
実施日	1月12日	(土)	開始時刻	11時	終了時刻	13時
作業:	佐須地区どんど焼き					
課題:	どんど焼きってなに？					
目的:	地域に根づいている行事に関心を持ち、生活との関わりを学ぶ。					
内容:	佐須地区どんど焼きにて餅つきを手伝う					
要領:	●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。					
準備:						
用具:	くい打ち用木製ハンマー、フォーク、バケツ					
服装・装備:	作業着、軍手、長靴					
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名: 今江、内田、大野、鬼弦、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、広瀬、藤井、牧島					
	開始時刻	11時			終了時刻	12時
	実施内容: 自由参加					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
備考:	留意事項:					
	----- ----- ----- -----					

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	1月13日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	1月13日	(日)	開始時刻	10時	終了時刻	12時
作業:	堆肥切り返し					
課題:						
目的:	堆肥発酵促進					
内容:	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。					
要領:	<ul style="list-style-type: none"> ●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。 ●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。 ●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。 					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:田原、富樫、時安、西山、沼田					
	開始時刻	10時			終了時刻	12時
	実施内容:放射能の問題があるため、大人だけで実施しました。					

留意事項:	-----					

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	2月3日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	2月3日	(日)	開始時刻	10時	終了時刻	12時
作業:	堆肥切り返し					
課題:						
目的:	堆肥発酵促進					
内容:	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。					
要領:	●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:田原、富樫、時安、西山、沼田					
	開始時刻	10時			終了時刻	12時
	実施内容:放射能問題があるため、大人だけで実施。					

	留意事項:					

備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	2月3日	日	開始時刻	13時	終了時刻	15時
実施日	2月3日	(日)	開始時刻	13時	終了時刻	15時
作業:	縄織い、草鞋づくり					
課題:	昔の人は稲藁でさまざまな生活に必要なものを作ってきました。そのひとつが縄です。今年から草鞋作りも行います。					
目的:	稲藁を使って縄を織うことを通して先人の知恵を学ぶ。					
内容:	稲藁を使った縄織い。					
要領:						
準備:	佐須ふれあいの家を使用					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:今江、内田、大野、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、藤井					
	開始時刻	13時			終了時刻	15時
	実施内容:児童館集会室にて、縄織いを実施。					
						
	留意事項:					
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	3月10日	日	開始時刻	10時	終了時刻	12時
実施日	3月10日	(日)	開始時刻	10時	終了時刻	12時
作業:	堆肥切り返し					
課題:						
目的:	堆肥発酵促進					
内容:	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。					
要領:	<ul style="list-style-type: none"> ●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。 ●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。 ●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。 					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:今江、内田、大野、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、藤井					
	開始時刻	10時			終了時刻	12時
	実施内容:大人だけで実施。					
						
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	3月10日	日	開始時刻	12時	終了時刻	15時
実施日	3月10日	(日)	開始時刻	12時	終了時刻	15時
作業:	「田んぼの学校」卒業式(反省会)					
課題:	米つくりを終えて					
目的:	この1年で考えたこと、学んだことを確認する。					
内容:	●軽食を取りながら行う。●●					
要領:						
準備:	佐須ふれあいの家を使用					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻義和、尾辻隆子					
	参加者名:今江、内田、大野、鬼弦、田原、富樫、時安、西山、沼田、林、平井、広瀬、藤井、牧島					
	開始時刻	13時	終了時刻	15時		
	実施内容:卒業式を実施。					
						
留意事項:						
備考:						

3. おたより

田んぼからのおたより2012

第1号 2012年4月15日発行

みなさん、お元気ですか。いよいよ「田んぼの学校」が始まりました。この「おたより」はこれから「田んぼの学校」とみなさんとのお互いの架け橋として創られます。内容は、「田んぼの学校」からのお知らせや、みなさんからのご意見などです。「田んぼの学校」についてわからないことがありましたら、お知らせください。私たち「田んぼの学校」のスタッフも12年目になりましたが、まだまだ不慣れですので、気がついたこと、いたらないことがありましたら教えてください。わからないことも質問してください。

体験をより充実させる為に

さて、「田んぼの学校」では、みなさんが田んぼでやったこと、見たこと、感じたことを記録することをお勧めします。ノートか野帳（野外観察用のフィールドノート）を用意し、思い思いに記録してください。できましたら、写真（撮りきりカメラで十分）も有るといいと思います。その日にあったこと、学んだことをお子さんと一緒に振り返ることで、体験がより充実したものになります。

種はつながっている

お米の起源は約15000年前、インドもしくは中国雲南で始まったそうです。お米も最初は野生のもので、昔の人は野生の種をまいて育てたようです。そのうちに、まいて育てた稲から種をとるようになり、その種を持って東へ移り住み、または、東の地方にいる人に伝えられ、2000から3000年前に日本に伝わったといわれていましたが、それより以前、6千年前の縄文時代に稲作の痕跡が見つかっています。

お手元にある種籾は、そのときの種とつながっています。品種改良はされていても、遺伝子という形でつながっているのです。

つながらない種

科学が発達して、いろいろなことができるようになりました。その中でも重要なもののひとつに遺伝子に関する技術や発見があります。遺伝子組み換えは、はるか昔からつながっているお米の種に、つながらないものができるということを意味しています。大変難しい問題ですが、一度考えてみる必要があります。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

4月15日(日)の学習 内容「種籾(たねもみ)の準備」 場所「自宅」

昔から、お米の豊作を願わないものはいませんでした。その最初の仕事が種籾の選別です。中身の詰まった重い種籾が丈夫な稲に育つことを昔の人は経験的に知っていました。

ではどのようにして重い種籾と軽い種籾を区別したのでしょうか。昔の人は、泥水に種籾をつけて沈んだ種籾を使っていました。浮いた種籾は軽くて悪い種籾として選別していたのです。

今は、塩水を使います。薄い食塩水に種籾をつけると重くて良い種籾は沈み、軽くて栄養分の少ない種籾は浮きます。これを「塩水選」といいます。真水では沈む種籾も薄い食塩水では浮くのはなぜでしょうか。おとうさん、おかあさん、子供といっしょに考えましょう。

それでは、同封(開校式でお渡しした)した種籾(もち米で銘柄はマンゲツモチ)で塩水選をやってみましょう。

1. 準備

鍋やボールなど適当な入れ物を用意して下さい。

2. 食塩水

真水(水道水でも可)200ccに塩16gを溶かして下さい。この食塩水の比重は約1.08です。もち米はこの食塩水で塩水選をします。かなりしょっぱい食塩水です。

3. 塩水選

この食塩水に種籾をつけてください。

種籾全体をこの塩水につけ、ここで、

沈んだ種籾が良い種籾です。浮いた種籾と沈んだ種籾を別にしてとりだし、それぞれ水で洗ってください。(塩分がついたままでは発芽に悪い)

水の表面張力で浮いている場合がありますので、注意してください。

4. 芽だし

次に、発芽を促すために種籾を新鮮な水に浸けておきます。選別した種籾の両方を同じように別々に水につけてみてください。15℃の水で、約1週間つけると発芽します。20℃なら5日くらいになります。水の温度が高いと早く発芽します。4月22(日)が種まきの予定ですが、それより早く芽が出たら(芽と根が1mm位になったら)、水を切って当日まで冷蔵庫に入れておいてください。低温にすることで発芽の成長が一時的に止まります。くれぐれも芽や根を伸ばしすぎて、モヤシのようにしないようにしてください。

以上



田んぼからのおたより2012

第2号 2012年4月21日発行

みなさん、お元気ですか。もうこの「おたより」の2回目になりました。

いよいよ、田んぼでのしごとがはじまります。田んぼでは、たくさんの生き物たちがみなさんをむかえてくれます。いろいろな草花、虫、鳥などです。どんな生き物に出会えるか楽しみです。

わからないことがある場合は、遠慮なくお問い合わせ（080-5012-5327）ください。

畑の広さの単位

田んぼの広さの単位についてちょっと調べてみました。私たちの田んぼは、3畝（せ）あります。約100坪（つぼ）。坪は畳2枚（3.3平方m）です。

1畝（約99平方m）、10畝で1反（たん、約991平方m）、10反で1町（ちょう、約9917平方m）です。

1畝は約1アール、100アールで1ヘクタールなので、1町が約1ヘクタールになります。

豊臣秀吉は、太閤検地と呼ばれる田畑の全国測量を行いました。そのとき、度量衡の統一も行われました。そのときに、1反360歩を300歩にしました。1畝30歩となり、1アールにきわめて近い値になりました。秀吉（実際に指揮したのは石田三成）は1アールという単位を知っていたものと思いましたが、調べた範囲ではそれらしい記述が見つかりません。反あたりの税収を上げるために300歩にしたという記述がありましたが、どうでしょうか。みなさんも調べてみませんか。

苗づくり

私たちの田んぼでは、田んぼの中に苗床を作ります。温室などで苗を作らない場合、平均気温が20度以上にならないと成長に影響があります。今年は、この数年のなかでも寒いため、苗の成長が遅れるかもしれません。

お米を生産する農家では、機械植えが普通なので、苗は温室で育てられ、5月中ごろ(関東)には田植えが行われます。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

4月21日(土)の学習(10:00~15:00)、4月22日(日)(10:00~12:00)

内容： 苗床作り、種まき
場所： 田んぼ
持ち物その他： 作業着、軍手、昼食

苗床作り(2 1日)

苗床（なえとこ）は種籾をまいて稲の苗を育てるところです。発芽した種籾はここで丈夫な苗として育ちます。

1. 田んぼの南側寄りに1 m幅、4 m長の広さで苗床用の場所を東西方向に2本確保し、草を刈り取ります。
2. 耕運機でできるだけ細かく耕します。
3. 中央に1 m幅の短冊状の畝（うね）を作ります。高さは周囲と同じ高さにします。
4. 両脇に10 cmくらいの深さで水路をつけ、用水の引き込み口から水路をつなげて水を引き込めるようにします。
5. 畝は草の根やごみを取り除き、大きな土の固まりはふるいで選り分けて手ですりつぶします。



畦草刈り

農家の人にとって雑草（正確にはいろいろな野草というべき）は天敵と考えられています。雑草は、作物の栄養分を取ってしまったり、成長を妨げたりするからです。雑草取りは農家の人にとっては大変な重労働なので、除草剤などが使われたりしますが、有機農法では除草剤は使いません。最近では、雑草を味方にする研究なども行われています。いずれにしても、まわりの畑に雑草の種が撒き散らされることも有るので、雑草をそのままにすることはできません。

1. 小さい草刈りガマで畦（あぜ）の草刈りをします。
2. 刈り取った草は適当な場所に積み上げておきます。後日、荒起こしのときに田んぼに漉き込みます。このように刈り取った草は緑肥と呼ばれ、立派な有機肥料です。漉き込まれた草は土の中で腐敗して肥料になるからです。

畑の草取り

暖かくなると、畑にもどんどん草が生えてきます。小さいうちにとるのが賢明です。

種まき(2 2日午前)

みなさんに準備していただいた種籾（もち米）と当会が準備した種籾を苗床に蒔きます。蒔き方はいろいろありますが、ちょうど良く蒔く（？）のがいちばん。

1. 苗床をもち米用（南側）、うるち米用（北側）にわけます。
2. 用意した種籾を厚すぎず、薄すぎず、ちょうど良く蒔きます。



3. 各自準備した種籾も、蒔きます。
4. 蒔いた種籾の上に薄く（3から5mmくらい）細かい土をかけます。（覆土・ふくど）
5. 板などを使ってある程度土を固めます。（鎮圧・ちんあつ）
6. 苗床全体にかまぼこ状にネット（寒冷紗・かんれいしゃ）をかけます。（防鳥）
7. 水路に水を引き込みます。水はかれない程度に苗床の周囲に回るようにします。

田んぼからのおたより2012

第3号 2012年4月29日発行

みなさん、お元気ですか。もうこの「おたより」の3回目になりました。

私たちの田んぼは佐須の用水に依存しています。現在も水利組合によって私たちの使っている用水の支流は田んぼで水を使う時期に泥さらいを行っています。本流は残念ながら、手つかずの状態です。20年ほど前、佐須用水の貴重な環境に注目した私たちは、ゴミが大量に捨てられている用水路の清掃を兼ねた生き物観察会を始めました。最初の1、2年はトラック1台分位のゴミを回収したこともありましたが、いまではその10分の1くらいまで減っています。それでも、毎年ゴミが回収される状況が続いています。昔は、用水で洗い物などを行っていることもあり、ゴミを捨てるようなことはなかったと思いますが、今では、用水に依存することが多く住むようになって、その大切さが意識されていません。私たちの活動で、用水の貴重さが理解されることを期待しています。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

4月29日(日) (10:00~13:00)

- 内容： 用水路清掃、生き物観察会
場所： 佐須用水
持ち物その他： 作業着、軍手、用水路に入ることでできる靴（サンダルは不可）
子供の着替え（水につかってしまうことがあります）

用水路清掃

私たちの田んぼは、カニ山奥の谷戸から湧き出る水を利用しています。このように水を地域の人たちと共同で利用する場合、利用する人たちが集まって組合を作り、共同で管理することが大昔から行われてきました。「田んぼの学校」でも利用させていただき感謝の意味を込めて、また、そこに生きる生き物たちが棲みやすいようにと清掃活動を続けてきました。



用水路生き物観察会

用水路清掃にあわせて行われるのが用水路の生き物観察会です。田んぼに水を供給してくれる用水は、同時に、多くの水生生物の恵みにもなっています。湧水は元は直接飲料水に使えるほどきれいなものでしたが、多くの人が周りに住むようになり、その影響を受け、次第に飲料水としては使えなくなりました。（今でも沸騰させれば飲めます）用水路の生き物を観察することは、水の汚れ具合を知る指標にもなります。そこに生きている生き物が、この水の安全性を証明してくれているわけです。

田んぼからのおたより2012

第4号 2012年5月20日発行

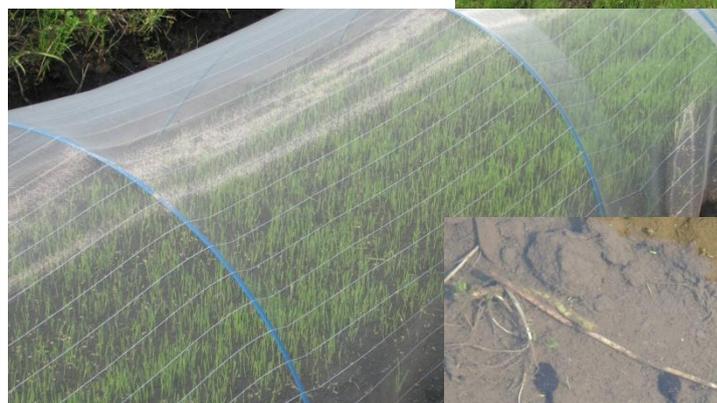
みなさん、お元気ですか。私たちの田んぼの最大の問題は水です。今年はどうでしょうか。柏野小学校裏の田んぼ、ホテル園コーポ前の田んぼ、そして私たちの田んぼには大きな違いがありますが、気がついた人はいますか。柏野小学校裏の田んぼは冬の間、田んぼに草がほとんど生えませんでした。ホテル園コーポ前の田んぼは少しだけ草が生えていました。私たちの田んぼは草でいっぱいでした。草が生えないということは、そこには草の種がまったくといていいほどないということの意味をしています。それでも草の種は飛んできたり、動物が運んだりして芽を出し、成長して、やがて種を落としますが、その前に草を取ることで次の世代を作らなければ草のない畑になります。除草剤の助けがなければ、大変な仕事です。雑草が全く生えない田んぼはちょっと気になります。となりの田んぼは草が生い茂っていましたが、おそらく除草剤によって今は枯れ始めています。

みなさんのご意見、お便りを待ちしています。



5月6日の苗床

お



5cm位に成長しています。

オタマジャクシも元気です。





田んぼには別の野草が顔を見せています。

5月20日（日）10:00～12:00 の学習

内容「◎堆肥入れ◎畦草刈り◎畑草取り◎荒起こし◎くろつけ準備」 場所「田んぼ」

堆肥入れ

堆肥置き場から堆肥を田んぼに運び漉き込みます。堆肥としてはできるだけ十分に発酵したのを使いますが、そうでなくても、土の中で更に分解されて肥料となります。

1. 堆肥をリヤカーで4, 5杯分田んぼに運んできます。
2. 堆肥を田んぼ一面にまんべんなく撒きます。
3. 小枝などの硬いものは分解されにくいので取り除きます。

畑と畦の草刈り

くろつけを行うために、畦の草を刈り取ります。畑の草取りも一緒に行います。

荒起こし

田んぼ全体を耕運機で荒く耕し、堆肥を土に漉き込みます。

くろつけ準備

畦の整理（昨年くろつけで盛った土を削ったり、崩れている部分を補修）を行ない、畦にそって水路の水を引き込み、くろつけの準備をします。

田んぼからのおたより2012

第5号 2012年6月3日発

みなさん、お元気ですか。

今年をよく雨が降っています。偏西風の蛇行が原因で、たびたび寒気が襲ってくるため、雨が多いようです。

個人的なことになりますが、田んぼをはじめから生活の中で一番変わったことが、雨を単純に毛嫌いすることがなくなったことです。それまでは、雨になると外出が億劫になったりしたのですが、結構雨を楽しめるように変わったのです。現金なものですが、雨が大切な作物の生育に欠かせないものであり、生き物にとってなくてはならない水を供給する循環の一翼を担っている点で改めてその機能を見直したいです。

みなさんは、雨を楽しんでいますか？

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

苗の様子（5月20日）



荒起こし（5月20日）

6月3日（日）（10:00～15:00）の学習

内容「くろつけ」 場所「田んぼ」

服装 どろんこになってもいい服装にしてください。子供は着替えを持ってきてください。
足で泥をこねたりしますので、長靴ではできません。基本的には裸足、地下足袋、靴下でやります。

持ち物 タオル、着替え、昼食

くろつけ

－「くろ」とは畦（あぜ）のことです。「くろつけ」は畦から水が漏れないようにするための作業です。泥をこねて、畦に泥を塗りつけて、表面を滑らかにします。土だけではたくさんの小さな穴が空いているので、水が漏れてしまいます。土を泥状にすることで、土の粒の間のすきまがなくなり、水が漏れにくくなります。写真はくろつけの様子です。

1. 畦にそって引き込まれた水と田んぼの土をまぜて泥をこねる。泥は畦の天上部と内側に壁塗りをするように塗り付けるのにちょうどよい硬さにするのが早く仕上げるコツである。
2. くろつけは水の引き入れ口からみて一番奥の部分から仕上げていく。
3. くろつけが終わったら、畦が乾かないように水路をつけて水を引き込んでおく。
4. 田んぼの内部にも水が入るように水路をつける。
5. 水路に水がなくならないように引き入れ口を調節する。



田んぼからのおたより2012

第6号 2012年6月9日発行

みなさん、お元気ですか。6月3日は雨の予報が外れ、くろつけを無事終えることができました。今年は雨が多く、田んぼ減ったこともあり、水が十分にあるため安心です。

一昨年、昨年とホタルの観賞会が実施されませんでした。今年、例年より1週間早く観賞会が開催され、これまででも一番というぐらいたくさん飛びました。おそらく、餌が足りなくて成長しきれなかった幼虫が結構いたのではないのでしょうか。

今週の土曜日にしろかき、日曜日に田植えを行います。土曜日の天気予報は雨模様ですが、連絡網のお知らせに注意してください。

今年のくろつけ



一昨年のしろかきと苗取りのようす



6月9日(土)(10:00~14:00)の学習

内容「しろかき」「苗取り」 **場所**「田んぼ」 **服装**「かなり汚れてもいい作業着」

足元「はだしか地下足袋、またはくつした」 **持ち物** 子供の着替え、タオル、昼食、水筒

しろかき

田んぼに水を引き、土と混ぜて、どろどろ状態にし、平らにして田植えの準備をすることを言います。大半に作業は耕耘機でやりますが、平らにならすのは人でなければできない仕事で、けっこう重労働です。

苗取り

苗床から元気に育った苗を取ります。乾いた土の状態ですと方法と、水を引いて土を洗いながらとる方法があります。今回はしろかきと同時なので水を引いて苗を取ります。

苗はもち米とうるち米と混ざらないように、もち米を取ってから、うるちを取ります。

取った苗は、一握りの大きさにして稲藁で結わえ、コンテナに入れて、水路につけておきます。

6月10日(日)(10:00~14:00)の学習

内容「田植え」 **場所**「田んぼ」 **服装**「かなり汚れてもいい作業着」

足元「はだしか地下足袋、またはくつした」 **持ち物** 子供の着替え、タオル、昼食、水筒

(注意 午前と午後に分けて作業をします。 午前中にくることができない場合はお知らせ

ください。)

田植え

お米の苗をしろかきの終わった田んぼに植え付けます。田んぼの南側から植え付けていきます。最初にもち米(全体の約半分)、次にうるち米を植え付けます。

1. 25cm間隔で目印のついた紐を用意して、東西方向に張る。(両端を人が持つ)
2. 苗を植える人は一握りの苗を持って、紐の北側に南を向いて適当な間隔で並びます。
3. 一度に植える苗は2、3本くらいで、大きな苗を植えるようにします。
4. 合図があったら、自分の持ち分に植え付ける。植え付ける場所は、紐の手前側に、目印のあるところ。
5. 自分の分が終わったら、一步下がって、これから植え付けるところを手でならず。
6. 全員が終わったら、紐を25cm北側に移動する。
7. 以上を繰り返していく。

田んぼからのおたより2012

第7号 2012年7月8日発

みなさん、お元気ですか。

今年は、水が十分にあるため、隣の田んぼでも田植えが終わりました。もうやらないと思っていた下の田んぼも田植えするようです。今年は水があるからと言っておられました。植えた苗は順調に成長していますが、水草もいっぱい。水草の影響は、水温が上がらないことくらいでしょうか。

さて、田んぼの生き物たちはどうなっているのでしょうか。いつものようにたくさんの生き物がいるといいですね。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしております。



田植えが終わったのたんぼ



田植えの様子

7月8日（日）（10：00～12：00）の学習

内容「畑の草取り」「草取り、根搔き」「畦草刈り」「生き物観察」 場所「田んぼ」

服装 普通に作業のできる服装できてください。草取り、根搔きは田んぼの様子を見てやります。畑の草取りも行いますので、長袖、長ズボンをお願いします。

持ち物 タオル、軍手、蚊取り線香（携帯用）、飲み物

草取り（一番草）

この時期に行う草取りを一番草といいます。私たちの田んぼは、これまであまり草取りの必要がありませんでしたが、だいぶ目立つようになりました。生き物観察の後、草取りをします。

根搔き

根搔きと言う作業は、稲の根の回りの泥をかき回して空気を送ったり、根を切ることで、根の生育を促進する目的があります。昔は、草取りと根搔きを両方を行う道具がありました。

根搔きの作業も私たちの田んぼでは、やっていません。根搔きはやったほうが良いという意見と、必要がないという意見があり、必ずしもどちらが良いとは言いきれないようです。

生き物観察

田んぼに水が入ると、田んぼには劇的な変化が現れます。その様子を観察します。

田んぼからのおたより2012

第8号 2012年8月24日発

みなさん、お元気ですか。今年も順調に生育しています。8月4日には穂が出始めました。いつも悩みの種となるアミミドロも今年はほとんど見られません。浮き草もいつもほど広がっていませんでした。毎年やっても同じ状態になることはありません。モグラの穴も対策（畔の中に竹を打ち込んで壁を作りました）が功を奏しています。

今年も、昨年に続き、用水路と田んぼの一体化による水管理をしています。水路の堰とセリの畑と田んぼの水面がほぼ一致していて、基本的に水中の生物が行き来できる状態になっています。田んぼはプランクトンが豊富で魚類、両生類、水生昆虫などにとって、餌に不自由しない場所となっています。昔の田んぼは大体そのような状態になっていたはずですが。殺虫剤や農薬、化学肥料などが使われるようになって、それらが用水路に流出することが問題となったので、田んぼの水を水路に戻すことをやめてしまいました。佐須の田んぼも用水路の整備を行った時点で田んぼに引き込んだ水は地中に浸透させるか、下水に流すようになっていました。私たちの田んぼは基本的に水路の水を汚すことがないため、一体化を考えていました。

7月22日の田んぼ



田んぼの生き物観察会の様子

柏野夏祭り

「田んぼの学校」では、地域の方々との交流を積極的に行うため、毎年柏野小学校で行われる地域の夏祭り「柏野夏祭り」に模擬店「焼鳥屋」で参加しています。今年の日程は以下の通りです。

8月23日(木)	9:00から12:00	会場設営
8月24日(金)	16:30から20:00	夏祭り
8月25日(土)	16:30から20:00	夏祭り
8月26日(日)	9:00から12:00	片づけ

夏祭りへの参加はボランティアで、自由参加ですが、焼き鳥を焼く体験は大変楽しく、また貴重（他ではできない体験）です。当会の貴重な運営資金を作る場でもあり、是非参加してください。特に金曜日はスタッフが足りません。奮って参加を。夏祭りの子ども向け模擬店もゲーム、綿飴、かき氷など盛りだくさんで、

子どもになかなかの評判です。参加の希望は、8月12日までに尾辻（TEL/FAX 042-487-4385）まで参加申し込み表をFAXするか、参加枠記号を電話でご連絡ください。参加の時間帯も自由です。

つまみ、お酒の差し入れ大歓迎です。詳しいことは、電話でお尋ねください。8月12日までに必ずFAX（042-487-4385）

柏野夏祭り参加申し込み（FAX用）

出席 欠席 します。（どちらかに○）

参加者氏名

参加できる欄（いくつでも可）に○を記入してください。

参加枠記号	日付	時間帯	内容	参加（○）
A	8月23日(木)	9:00～12:00	会場設営	
B	8月24日(金)	13:00～16:30	仕込み(焼き鳥を解凍します)	
C	8月24日(金)	16:30～18:30	焼き鳥販売(焼きと売り子)	
D	8月24日(金)	18:30～20:00	焼き鳥販売(焼きと売り子)	
E	8月25日(土)	13:00～16:30	仕込み(焼き鳥を解凍します)	
F	8月25日(土)	16:30～18:30	焼き鳥販売(焼きと売り子)	
G	8月25日(土)	18:30～20:00	焼き鳥販売(焼きと売り子)	
H	8月26日(日)	9:00～12:00	片づけ	

田んぼからのおたより2012

第9号 2012年9月2日発行

みなさん、お元気ですか。今年の夏は熱帯夜が続き、雨も降らず、大変でした。

柏野小学校の夏祭りは好天に恵まれ、準備した4,400本のうち、金曜日約2,000本、土曜日約2,100本を売上げました。両日完売となりました。お手伝いいただいた皆様に、改めて御礼申し上げます。

さて、3年ほど前からスズメ被害が拡大し、収穫が減るという大変な事態になりました。昨年は早めの対策が必要と思い、穂が出ると同時に全面を防鳥網で覆うことにしましたが、それでも、網を全然恐れないスズメが隙間から入って食べているほどでした。今年も、去年の経験を生かして、2重に網を張るなど万全を期す予定です。

「スズメ対策」の定番といえば、案山子（かかし）です。大いに工夫してスズメの恐がる案山子を作ってください。光ったり、音が出たりするものがあるといいかな？ ことしも創造性豊かな案山子を期待しています。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



8月11日の田んぼです。

9月2日（日）（10：00～13：00）の学習

内容「田んぼの生き物観察、カカシ作り」 場所「田んぼ」

持参するもの 案山子の材料（垂木以外のもの）、大工道具

田んぼの観察

残暑が厳しく、朝夕は秋の気配が感じられますが、夏が続いているようです。それでも田んぼの様子も少しずつ変わっています。秋の田んぼをじっくりと観察してみましょう。

カカシ（案山子）作り

芸術の秋とも言います。調布のすずめは少し賢いので、みなさんの創意工夫をおおいに期待しています。芸術性を追求するか、実用本位でいくか家族会議で検討してください。一家族で案山子一体作っていただきます。骨格となる部分の垂木は事務局で用意します。案山子に着せる服や、飾り付けなどの材料や大工道具は持参してください。



3年前のスズメに食べられた様子

田んぼからのおたより2012

第10号 2012年10月6日発行

みなさん、お元気ですか。いよいよ稲刈りです。4月22日に種まきをしてから5ヶ月、6月17日に田植えをしてから4ヶ月弱、順調に生育し、雀の被害もほとんどなく、稲刈りを迎えることができました。8月は記録的な小雨でしたが、湧き水はそれまでに十分に雨が降っていたため、渇水になることなくすみました。

調布産の、自分たちの新米を食べるのが今から楽しみです。うるち米は「キヌヒカリ」という品種です。有名なコシヒカリの遺伝子を受け継いでいる品種です。もち米はマンゲツモチという品種です。

刈り取った稲ははざかけをします。2週間くらいで稲は乾燥し、脱穀できるようになります。十分に乾燥していないと脱穀した粃が発酵してしまうことがあるようです。

はざかけ(はさかけともいう)の「はさ(稲架)」は刈り取った稲をかけて干すしくみのことです。日本全国にいろいろな形があります。田んぼの畦に木がある光景を見たことがありますか。

あれは、はさかけのために植えられたはんのき(榛の木)です。(カバノキ科の落葉高木。山野の湿地に自生。幹は直立し、15メートルに達する。)湿地に直立してくれるということは、はさの心棒にはもってこいですね。

稲刈りは、刈り取り用のカマを使います。カマの扱いには、十分気をつけてください。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

はざかけされた稲(昨年)



10月6日(土)(10:00~12:00)の学習

10月7日(日)(10:00~12:00)の学習

内容「ハザ掛け準備、稲刈り」 場所「田んぼ」

服装 長袖、長ズボンの作業着、軍手

ハザ掛け準備

はざは、1段掛けのものを南北に4列田んぼ内に設置します。

1. 最初にはざの足場用の場所(6箇所)の稲刈りを最初に行います。
2. 足場用の垂木3本を1組にして荒縄で組んで3脚にしたものを、合計12組作ります。
3. 1列につき、3組の足場を並べます。
4. 10m前後の竹竿を3本くらい束ねて丈夫な1本の竿にして、足場の上に固定します。
5. 必要に応じて、竿を補強してください。

稲刈り

6日はうるち米、7日はもち米の刈り取りをします。

1. 稲株を左手で握り、右手の鎌で根元から刈ります。
2. 刈り取った稲は1握り分づつを根元をクロスさせて2握りを1組にしておいていきます。
3. クロスしておかれた稲の束を濡らした稲わら3、4本で根元を結わえます。
4. 結わえられた稲束をクロスしたところで左右に振り分けてはさに掛けていきます。
5. はさかけの周りに鳥除けの網を張ります。

田んぼからのおたより2012

第11号 2012年10月27日発行

みなさん、お元気ですか。雨で稲刈りが1週間遅れ、そのために脱穀も予定から遅れて実施となります。すずめの被害対策を十分に行ったおかげで被害がほとんどなく一安心です。

通常ですと2, 3週間も乾燥させると稲わらの水分もなくなりずいぶんと軽くなります。

脱穀とは、稲から粃を分離させることです。大昔は千把扱き（せんばこき）というもので脱穀していました。鉄片を櫛の歯のように並べ、それへ稲穂をひっかけて、粃（もみ）をしごき落とします。約300年前の元禄年間（1688-1704）に考案されたようですが、いまでも農家の納屋にこれが残っていることがあり、昭和のはじめ頃までは使っていたのではないかと思います。

当会には、足踏み脱穀機（ミノル式）がありましたが、これは、1910年（明治43年）の発明といわれています。千把扱きに比べ8倍の能力があるそうです。脱穀機で落とした粃と藁くずを分別する機械が唐箕（とうみ）です。唐箕の前は、風を利用して箕に入れた粃と藁くずを振って分別していました。脱穀している時は、ほこりがたくさん出ます。ぼうしとマスクを用意してください。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

先日の稲刈りの様子



ハザ掛け(一昨年から1段4列)

10月27日(土)(10:00~12:00)の学習

内容「脱穀」、場所「田んぼ」

服装「作業着、ぼうし、マスク」

なお、前日、当日が雨天の場合、翌週の11月4日(日)(10:00~12:00)に延期します。

脱穀(だっこく)

稲穂から籾を取ることを脱穀といいます。籾の状態は種と同じで、長期保存する場合は籾の状態で行います。次の年の種にするものは特に種籾といいます。

縄文時代前期(6000年前)には日本で稲作がおこなわれていた遺跡(陸稲米)が見つかっており、弥生時代中期には北海道以外の日本全国で稲作(水稲)がおこなわれるようになったようです。その頃の脱穀はおそらく手か石器でしごき取っていたと思われます。

脱穀は、組合所有の脱穀機を使います。ガソリンエンジンで自走でき、あっという間に脱穀は終わります。

田んぼからのおたより2012

第12号 2012年11月4日発

みなさん、お元気ですか。1週間遅れて10月30日に天日干しされた稲穂から籾を取る脱穀を行いました。今週は、籾摺りです。籾摺りは籾の外皮を取り除く作業です。江戸時代には土臼などが使われたようですが、現在はゴムロール式と衝撃式といういずれもゴムを使ったものになっています。現在、田んぼの学校で使っている籾摺り機は近所の農家ら譲り受けたものですが、傷みが激しく、やっと動作しているような状況でしたので、中古の籾摺り機を購入しました。

籾摺りによって籾殻(外皮)がとれた米を「玄米」といいます。最近では、この「玄米」を食べる人が増えてきました。これは、普通みなさんが食べている「白米」にくらべてビタミンB群、E、リノール酸、ミネラルなどの栄養価の高い成分が多く含まれていることや、便秘に効くということがあるためです。ただ、炊き方がややめんどろです。それでも、最近の炊飯器は優れたものが多いです。玄米も柔らかく炊けます。

「玄米」と「白米」の間に「胚芽米(はいがまい)」、「発芽玄米」というのがあります。以前から「白米」を10分として、ぬか部分の削り具合によって3分・5分・7分搗きというお米がありました。「胚芽米」は特に重要な「胚芽」(発芽する部分)を残すようにしたものと言うことです。「玄米」の表面には消化されにくい米ぬか層があり、「胚芽」を含めてこれを全部削り取ったものが「白米」になるわけです。「胚芽米」にもその削り加減で3分・5分・7分搗きなどがあります。「胚芽米」は米ぬかに含まれている前記の栄養があるうえ、「白米」と同じ様に炊くことが出来、消化吸収も良いということで、人気があるようです。

「発芽胚芽米」というのを聞いたことがありますか。「胚芽米」を研いだ後、40度くらいのぬるま湯に2時間ほどつけると、胚芽部分が膨らみます。詳しいことはわかりませんが、ぬるま湯につけることで発芽が進むようです。その後、普通に炊くと出来上がります。「胚芽米」と「発芽胚芽米」のどちらがおいしいか、どちらがより栄養価が高いかはよくわかりません。みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

脱穀機による脱穀



脱穀された稲藁

11月4日（日）（10：00～14：00）の学習

内容「粃摺り」 場所「田んぼ」

粃摺り

脱穀で稲わらから取った稲の実を粃といいます。粃は種状態で、外皮に守られていますので、長期に保存が出来ます。粃から外皮(粃殻)を取り除いて「玄米」にする作業が粃摺りです。この言葉は文字どおり粃を擦りあわせることが語源になっています。粃殻は結構頑丈に出来ていて、つめを立てないと取れません。どうすればこの外皮をうまくとれるのでしょうか？みなさん、考えてみてください。持ってくる事ができる方はすり鉢とゴムの野球ボールをお持ちください。

答えは田んぼで。

田んぼからのおたより2012

第13号 2012年11月18日発行

みなさん、お元気ですか。先日、新しく買った中古の粳搥り機で粳搥りを行いました。今年
は例年とほぼ同じで140Kgくらいです。正確には18日に計ります。

今回購入した粳搥り機は、粳同士をこすり合わせて粳殻を取ります。かける圧力が小さいた
め、これを繰り返すので、循環型といっています。40分くらいで約30Kgの粳を処理する
ことができます。この機械に玄米を入れて循環させると同じ原理で精米ができます。ただし、
厳密な分搗きはできません。

みなさんのご意見、お便りをお
待ちしています。

右の写真は粳搥り機ともみすりの
様子です。



11月18日(日)(10:00~12:00)の学習

内容「精米」 場所「田んぼ」

精米

粳搥りが終わった状態のお米が玄米と呼ばれます。玄米から胚芽米や白米にすることを「精
米」といいます。もち米はぬかを全部取り、「白米」にします。うるち米はほぼ玄米にちかい状態
を目標に精米します。粳搥り機と精米機は同じ物です。玄米を精米機にかけるだけなので、見
学となります。時間内にお越しください。

田んぼからのおたより2012

第14号 2012年11月23日発行

みなさん、お元気ですか。稲刈り、脱穀、粃摺り、精米が順調に終了することが出来、いよいよ収穫祭です。今年の収穫は、すずめの被害を最小限に抑えることができ、まずまずの約128Kgでした。

さて、私たちの作ったうるち米は関東で比較的多く栽培されている「きぬひかり」という銘柄です。茨城県では奨励品種になっています。コシヒカリの血統を受け継ぎ、炊きあがりの絹のような色つや、そして食味も好評ということです。お米の味は、新米の精米直後がよりおいしく味わえます。また、炊き方によっても味が変わってくるので、おいしく食べるには細心の注意を払ってください。おいしく炊くコツの一つはお米を研いだ後の「浸けおき」です。20度の水温の水で1時間つけると最適です。何かと忙しいおりですが、段取りを付けて、1時間浸けおきをしてみてください。

収穫祭のお知らせ

収穫祭は、作物の収穫を祝って行うお祭りです。毎年11月23日の勤労感謝の日に行ってきましたが、それなりに意味があります。この日は、「新嘗祭（にいなめさい）」が行われている日に当たります。「新嘗祭」は「しんじょうさい」ともいい、「新」は新穀を「嘗」はご馳走を意味します。毎年この日に全国の神社で行われ、新穀を得たことを神さまに感謝する新嘗祭は、五穀の豊穰を祈願した2月17日の祈年祭と相対する関係にあるお祭りです。新嘗祭の起源は古く、『古事記』にも天照大御神が新嘗祭を行ったことが記されています。私たちの会では、収穫をもたらしてくれたすべてのものに感謝の気持ちを表すために収穫祭を行っています。出来るだけたくさんの人とお祝いしたいと思いますので、お友達などお誘い合わせの上、おいで頂きたいと思います。お祝い事ですので、お酒やおつまみなどの持ち込みは大歓迎です。

つきたてのお餅を食べるときの具（おろし醤油、納豆、きな粉、あんこなど）をいろいろ用意しておりますが、ご自分の田舎で食べる具でこれはぜひというのがありましたら、みなさんにご披露してください。なお、お年寄りの方（70歳以上）、幼児は無料で参加いただけます。みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



11月23日(水)(9:30~15:00)の学習

内容「収穫祭」 場所「田んぼ」

持ち物 お椀、お皿、はし、飲み物、包丁、まな板

会費 大人(中学生以上)300円、子供(小学生)100円(食材費に当てます)

酒代(お酒を飲む人)

その他 当日が雨の場合、11月25日(日)に順延します。

収穫祭

田んぼで取れたもち米(約20Kg)で餅つきを行います。最初の一臼は一年の感謝を込めて、お供えもちとして竹内さんに献上します。二臼目からはいろいろな具といっしょに皆さんで味わっていただきます。お餅の他には豚汁、焼き物(干物、焼き芋など)を用意する予定です。

参考までに餅つきの簡単な手順を説明します。

餅つきの手順

1. もち米の浸けおき

もち米は前日に研いで、水に浸けておきます。

2. 湯沸かし

蒸し器用の湯とは別にお湯をたくさん沸かします。洗いや、臼、杵を温めておいたりするために使います。

3. もち米を蒸す

浸けおきしたもち米はざるで水を切った後、蒸し器に1升(1臼分)ずつ入れて蒸します。お米の芯が残らないように十分に蒸します。

4. こねる

蒸しあがったもち米は手早く臼に入れ、米粒の形がなくなるまで、杵でこねてすりつぶします。これもできるだけ早くやります。

5. 搗く

十分にこねたら、搗き始めます。臼の中の餅は搗きやすいように相方が手で寄せます。搗き手と相方の呼吸が大事です。また、餅が熱いため、手に水を付けますが、つけすぎると水っぽくなるので、注意が必要です。

搗いた杵がもちから反発力を感じるようになれば搗き上がりです。

6. 粉にまぶす

搗きあがった餅はそのままでは何にでもくっつくので、のし台に米粉や片栗粉でまぶします。

追伸

今年は、とれたお米を希望する方に1Kg400円で販売します。23日に一家族あたりうるち米(5分搗き)3Kg、もち米1Kg(合計1,600円)販売します。

田んぼからのおたより2012

第15号 2012年12月16日発

みなさん、お元気ですか。今回はカニ山でキャンプをします。カニ山は、田んぼの用水が湧き出ている谷の雑木林で、昔、たくさんの湧き水があって、沢ガニがたくさんいたのでこの名前が付いたようです。コナラ、クヌギといった武蔵野の雑木林を今も残しているところです。雑木林は、堆肥にする落ち葉や薪にするシバ、炭や薪にする材木を取るために、人が入って管理していた自然（二次自然ともいう）の森です。そのため、切り株からまた枝をのぼして大きくなる（萌芽更新という）コナラやクヌギの仲間が残され、木の背丈も10m位に維持されていました。ちょうど薪にしたり、炭焼きにするのにいい太さで切られるためにいつもそのくらいになるわけです。現在、都会にある自然を残すために、雑木林が残されることがありますが、その多くは、人間が手を入れないため、コナラ、クヌギなどが大きくなりすぎて、昔の「武蔵野の雑木林」の面影を残してはけません。カニ山も残念ながら、木が大きくなり過ぎ、人もたくさんはいるので、地面が固くなっています。本来の雑木林は、その地面にたくさんの水を含んで貯める保水機能も持っていて、湧き水が枯れない要因にもなっています。



右の写真は収穫祭

ちょうふ環境市民会議会員との懇談

お昼の食事時にちょうふ環境市民会議の会員との懇談を企画しています。

炭焼きキャンプの出欠連絡

炭焼きキャンプの出欠について、12月14日夜までにFAXまたは留守電（042-487-4385）（次ページ）で尾辻宛必ずご連絡下さい。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

12月16日(日)9:00~16:00の学習

内容 炭焼きキャンプ 場所 カニ山

持ち物 食器(はし、皿、茶碗、お椀、コップ)、調理器(包丁)、着替え、おやつ(飲み物はこちらで用意します)、空き缶(鉄板でできた茶筒やせんべいの箱などで、しっかりふたができるもの。炭焼きに使います)、炭材(炭にしたいもの。マツボックリ、ドングリ、栗、割り箸、花など)、差し入れ(自由です。おやつや酒の肴など歓迎)、お米(幼児を除く参加者一人1合)
(はチェックのためにお使いください。)

参加費 大人 700円、小学生以上の子ども 200円、幼児(無料)

その他 駐車場がないので、車での参加はご遠慮下さい。雨天の場合は中止(連絡網にて

通

知)とします。

スケジュール

9:00 集合 カニ山キャンプ場(かまどがあるところ)。時間厳守
 9:30 授業 火起こし(火起こしの学習)、炭焼き、焼き芋
 11:00 昼食準備(父母)
 12:00 昼食、懇談 カレー、手羽焼き他の予定(炭で焼きます)
 13:00 炭焼き終了
 13:30 授業 しめ縄作り
 15:30 片付け
 16:00 解散

-----切り取り-----

「田んぼの学校」事務局宛FAX(042-487-4385)

炭焼きキャンプに参加します。

参加者氏名	区分(○を付ける)
	大人、小中学生、幼児

参加費

大人 人 × 700円 = 円
 + 小中学生 人 × 200円 = 円

 合計 円

田んぼからのおたより2012

第16号 2013年1月12日発行

新年あけましておめでとうございます。田んぼの学校の授業もあと3回となりました。もう少しがんばりましょう。一昨年は東北大震災と福島第一原発の事故により、自然災害だけでなく、あってはならない放射能汚染という事態が起きてしまいました。これまでもチェルノブイリなど原発事故はありましたが、日本で起こってしまったことにあらためて無念の思いを抱かざるをえません。「絶対にこのような事故は起こらない」という言葉に、起こってほしくないという気持ちが油断を生んでしまいました。福島第一原発は、ほとんど現状維持という状態で綱渡りしています。日本の技術をあげて廃炉に向けて進んでほしいと思います。現代に生きる親の世代として、この責任は負わなければなりません。子供や孫、曾孫によりよい環境を残すことは重要な使命であり、責務だと思います。

さて、今回の授業は佐須地域の行事「どんど焼き」体験と「土作り」としての落ち葉たい肥の天地返しです。

「どんど焼き」は、お正月の松飾りや門松、書初めなどを持ち寄り、集めて燃やします。その火にあたることで、一年間の無病息災がかなうといわれています。また、その熾火（おきび）でお餅や団子を焼いて食べることで風邪をひかないなどといわれています。いずれにしても昔から行われてきているこのような行事の謂われなどは多分に神様（昔からいたる所に神様が宿っていた）に対する感謝と願いが込められたものであることに違いはないように思われます。今回の授業では、実際にその行事を見学し、あらためてそのような行事が地域で長年にわたり続けられてきたのかということを考えていただければと思います。



上と左の写真はおととしのどんど焼き

もうひとつの授業が「土作り」です。一昨年は、放射能の汚染問題があるため、落ち葉集めを中止しましたが、今年も落ち葉集めは中止します。今回の天地返しは、昨年に積んだ堆肥について行います。落ち葉はただ積んでおくだけでも自然発酵してたい肥にはなりますが、やはり手を加えることで短期間に良いたい肥ができます。その作業の一つが積まれている落ち葉をひっくり返す天地返しです。天地返しにはいろいろな効果があります。その一つが満遍なく発酵させること。空気を混ぜることで発酵を促進させることなどです。



上の写真は3 mほども積まれた落ち葉（3年前）

1月12日（土）（11:00～12:00）の学習

内容「どんど焼き」体験 場所「田んぼ近く祇園寺前」
持ち物 箸と器（搗きたてのおもちが振る舞われます）

どんど焼き(佐須地域の行事参加)

かつて、農村の集落ではどこでも行われていたと思われるお正月の行事としてどんど焼き（地域によって呼び方が異なる）があります。佐須地域でも一時途絶えていたものを地域の青年会が復活して20年をこえる事業になっています。

1月13日（日）（9:00～11:00）の学習

内容「天地返し」 場所「田んぼ近くのたい肥集積所」
準備 足元は長靴がおすすめです。

たい肥天地返し

たい肥の集積所に積まれている落ち葉をひっくり返す作業を行います。
当日、風がなければ、たき火をします。

田んぼからのおたより2012

第17号 2013年2月3日発行

皆さんお元気ですか？ 2月の授業では、縄織い（稲わらで縄を作ること）を学習します。冬の間お米作りをやっている農家では田んぼでの作業がないかわりに家の中で行う作業がありました。その代表的なものが縄織いです。インターネットで探してみると地域特産物マイスター協議会・財団法人 日本特産農産物協会が発行する「地域特産物マイスター通信」という広報誌にこんな文章がありました。「百姓仕事にとって縄織いは基本作業だった。結ぶにも、担うにも、運ぶにも、入れるにも、敷くにも、履くにも、そして保温にも、皆、縄が不可欠だ。目的に沿った稲藁の選択、湿り具合と打ち加減、縄織いのワザとコツ、何処の軒先に立っても藁を打つ槌音とショリショリと繰り返されるリズムが聞こえた。右の掌と左の掌の巧妙なワザが纏う1本の藁縄には、時間（歴史）と空間（地域社会）が織り成す文化があった。」

2000年を超えるお米作りの伝統のなかに、農作業や普段の生活に欠かせない様々なものを提供したのが稲藁で作る縄であったり、草履であったり、米俵などでありました。お米作りを学んで一番驚いたことは、収穫されたお米だけでなく、籾殻、米ぬか、稲藁などその課程で生まれる副産物が一つも無駄になっていないことです。ここではいちいち書きませんが、ぜひ皆さんインターネットなどで探してどんなものがあるか調べてみてください。調べたら、是非皆さんに教えてください。

2月3日（日）（10:00～12:00）の学習

内容「堆肥天地返し」 場所：堆肥堆積所
履物は長靴をお勧めします。雨の場合中止。

2月3日（日）（13:00～15:00）の学習

内容「縄織い」 場所：佐須児童館集会室
室内なので雨でもやります。藁草履作りに挑戦します。
午後も授業がありますので、お弁当をお持ちください。

縄織い

稲刈りをし、脱穀した稲藁は、実は大変な貴重品になっています。皆さんは実際に稲刈りをしているので、その大変さがわかると思いますが、農家で作っている田んぼの広さは、私たちの田んぼ（3畝）の最低でも10倍から大きいところはおそらく数百倍で、とても手では刈り取りできる広さではありません。コンバインという機械で刈り取りしますが、稲藁がそのままではかさばるため、同時に粉々にしてしまいます。だから、稲藁もありません。そのため、稲藁は大変貴重なものになっています。

さて、縄織いですが、いわゆる手仕事です。上手に、早く縄を作ることはなかなか大変です。でも、自分で作ることに大きな意味があります。そんなことが体験できればいいなと思います。みなさん、お楽しみに。



東日本大震災が発生して、あっという間に二年が経過しました。前回の総選挙で民主党が大敗し、さまざまなものがもとに戻ろうとしています。総選挙の争点は原発の廃止のはずでしたが、自民党以外の勢力が分散したため、自民党の圧勝に終わりました。3.11大震災の直後に発生した原発事故で、あわや、関東一円が放射能に襲われるかもしれないという最悪の状況に陥ったことを忘れていいのでしょうか。生きた心地がしなかったというのはこのようなことではないのでしょうか。電力会社が絶対はないと言ってきた事故が発生し、それも炉心溶融という重大事故でした。後からわかってきたことは、最悪の状態にもかかわらず、紙一重で救われていたことでした。まさに、神様はいたということでしょうか。事故が収束したと政府は言っていますが、使用済み燃料の冷却は絶対安全ではありません。同じような地震が発生したとすると今度こそ、日本が壊滅するほどの事態になることを自覚しなければなりません。

あらためて思うことは、地球にとって太陽が太古のころから人間のみならずすべての生き物の“元”になっているということです。日本には四季があり、それぞれの地域で太陽の恵みを最大限に利用して作物をつくり、営々と日々を紡いできたことを再認識するこの一年ではなかったでしょうか。

地球規模で起こっているさまざまな環境問題を解決するためには、グローバルな視点とローカルな視点での取り組みが必要です。「田んぼの学校」では、そのローカルな取り組みとして身近な環境である「田んぼ」のある環境を守ることを重要な目的にしています。

「田んぼ」には環境問題を解決するヒントがたくさんあります。「田んぼ」の米づくりをとおしてそのいくつかでも気がついていただければと考えています。みなさん、この一年でいくつくらい気がついていきますか？

宿題

今回の学習には、宿題があります。忘れずに持ってきてください。

宿題は、この12ヶ月間に田んぼで学んだことの感想文（長さは自由です。）です。この一年、参加した授業をもう一度、家族で振り返ってみてください。おとうさんも、おかあさんも、こどもたちもみんな書いてください。（書けない子どもは、おとうさん、おかあさんが代筆してください。）卒業式に読み上げていただきます。

卒業式欠席の場合も3月8日までに宿題は提出（FAX、メールなど）してください。

出欠席の確認

卒業式の出欠席を3月8日(金)までに尾辻まで FAX して下さい。

4. 會計報告

2012年度収支決算

	科目	コード	金額	備考
収入の部	受講料	1110	174,000	
	事業収入	1120	96,200	柏野夏祭り模擬店収益等
	会費	1210	10,000	
	寄付	1310	50,000	
	預かり金	1320	65,200	米代他
	立替入金	1330	0	
			0	
			0	
収入の部合計			395,400	
支出の部	消耗品費	2110	34,383	
	通信費	2120	6,500	インターネットサーバ他
	材料費	2130	26,703	種など
	交際費	2140	8,520	
	会議費	2150	16,447	
	教材費	2160	0	
	講師料	2170	149,000	
	講師補助費	2171	0	
	保険料	2180	0	
	燃料費	2190	0	
	印刷費	2200	0	
	修理費	2210	35,700	
	光熱水費	2220	10,000	
	賃貸料	2230	500	ふれあいの家
	預かり金支出	2310	81,200	米代
	立替金	2320	0	
	手数料	2330	0	
	参加会費	2340	1,500	
支出の部合計			370,453	
収支差額			24,947	

消耗品費
通信費
材料費
交際費
会議費
教材費
講師料
講師補助費
保険料
燃料費
印刷費
修理費
光熱水費
賃貸料
預かり金支出
立替金
手数料
参加会費

5. 参加者名簿

氏名(家族代表)	自宅市町村
今江 知延	狛江市東和泉
内田 義明	調布市調布ヶ丘
大野 良枝	調布市菊野台
鬼弦 千枝子	調布市飛田給
田原 晋介	調布市国領町
富樫 豊	調布市布田
時安 裕	調布市国領町
西山 光明	狛江市西野川
沼田 貴明	調布市多摩川
林 保	調布市調布ヶ丘
平井 康大	調布市佐須町
広瀬 夕佳	調布市
藤井 一輝	調布市深大寺東町
牧島 進	調布市国領町

6. 参加者感想文集

今年も田んぼの学校の2年目でした。

仕事、育児、老親の面倒のすべての両立は難しいと一度は継続をあきらめたものの、娘の強い希望もあり、もう1年継続させていただきました。

昨年、種まきから稲刈りまで一連の作業を経験したはずなのですが、すっかり忘れてしまっていることも多く、一からまた学んだという感じの1年でした。

娘は作業よりもお友達と遊びたいという気持ちも強かったので、ちょっと強制的に田んぼの作業をやらせた感もありますが、田植えや稲刈りでは張り切ってやってくれたように思います。鎌の使い方も上手になりました。

娘の保育園では、年長児がプランターに稲を植えお米を収穫し、そのお米でおにぎりパーティーをするというイベントがあるのですが、娘は自分の経験をお話ししたりしながら参加していたようで、田んぼの学校の経験も生かされたようです。

昨年もそうでしたが、娘は案山子づくりをとっても楽しみにしていて、どんなデザインでどんな雀対策をするのか等親子で話し合い、作業日前には顔も作り上げ、案山子づくりの当日にはかわいい魔女を完成させました。

火起こしの体験も親子で楽しみにしていた一つでしたが、昨年の経験をあまり生かせず、どうにか合格という感じで、ちょっと残念でした。

この学校に入った目的は、食べ物をいただけることのありがたさ（簡単に作れないことや人の手間等がかかっていること）を知ってほしいということや異年齢の子との交流でしたが、この2年間で目的は多少達成したかなあとと思います。

親子で何かを1つのことをやるというのは、なかなかないことなので、この田んぼの学校は良い思い出となりました。

今年で卒業しますが、柏野小祭りや収穫祭などまた参加させていただければと思います。2年間ありがとうございました。



たの
★ 楽しかったこと

いね う
○ 稲を植えたこと

いね
○ 稲刈り

○ かかしづくりがおもしろくてびっくりした

★ わかったこと

おこめをつくるのがどん^{たん}ぽに 大変^{たいへん}なのかわかった

ましまあい

平井 康大

山口県に住んでいた小学生時代に水田の風景は見慣れていたのですが、自分で土を耕し、苗を植え、稲を刈

返 KUYO LOOSE-LEAF /-807B 6mm ruled x 28 lines

るのは初めてでした。

調布に住み始めてもうすぐ10年。一段と調布、子になれた気がします。新年度もおいしいお餅が食べられるようにがんばります。

平井 祐紀

高知に住む私の祖父が半世紀以上も田んぼを守りつづけています。その昔節と暮らしているの一端でもかいてみられた気がします。

地道で、^{たが}骨のおれる作業で、1粒のお米でも、らびにはできないと、今まで以上に思いました。

また、カエルや魚、バッタを見たり野鳥の声をきいたりからの田んぼの作業は、とても気持ちのいい作業でした。人工物にばかり囲まれている暮らしではあまり意識することのない、自分も自然の一部なのではないかと、この感覚を他の生き物と同じように土の上で生きて

与えてくれています。

子どもたちが虫とりをしたり草の実とみつけたり、田んぼの中をおともだちとかけまわったりと、里山のあそびのようなものをこの調布でできたことが、格別に嬉しかったです。

お休みがたくして申し訳ないのですが、来年度もよろしくお願いいたいです。

平井 慧大

おもちを食べたのと、田んぼの川でおたまじゃくしと
とれたのがうれしいです。田んぼの中で、お米を
水に入れるのが楽しかったです（田植えのこと）。
かまでお米をザクザク切るのも楽しかったです。

ねん くみ 平井 時菜

田^たんぼの学^{がく}校^{こう}は、他^{ほか}でた^たいけん

の^ので^でき^きな^ない^い色^{いろ}い^いろ^ろな^な事^{こと}を^をき^きせ^せて^ても

れ^れて^て、と^とて^ても^もう^うれ^れし^しい^いで^です^す。

と^とく^くに^に私^{わたし}が^が楽^{たの}し^しい^い、と^と思^{おも}っ^った^たこ

と^とは^は、田^たう^うえ^えで^です^す。あ^あま^まり^りす^する^るこ

と^とが^がで^でき^きな^ない^い、ど^どろ^ろ土^{つち}に^に足^{あし}を^を入^いれ

てなえをうえる、
と、いうことがで

き、わたしは、
よるこんでいます。

次の田んぼの学校も、
私たちには

行くとうと思っ
ています。本当
にあり

けがとうござ
います。これか
らも

かこれからも、
がんばります。

田んぼの学校に参加して（感想）

平成25年3月10日

富樫家（3名）

参加し始めて三年がたってしまいました。春が近くなってくると田んぼの事を思い出すようになってきました。来年もやってみたいと思っています。

去年の春入学式では生徒が少ないのかな？と心配もしましたが、その後は生徒も増えて子供たちの楽しそうな姿も見え微笑ましく、こちら側も楽しんで活動できたかなと思います。

来年度以降については原発影響による落ち葉たい肥をどうしていくか心配です。

一緒に知恵を出せればいいなと思います。

富樫 豊

今年度も一年間お世話になりました。農作業は自然を相手に重労働だったり単調な作業が続いたりですが、自然の中で働くことで終わってみればその日の気分が晴れていることに気が付きました。

今年も昨年同様息子は田んぼの作業より子供たちで遊ぶことが楽しかった様子でしたが、休日外に出て自然の中で走りまわって遊ぶことだけでもよいのかなーと思うようになりました。

ご迷惑をおかけしたことも多々ありましたが楽しく参加させていただきました。

ありがとうございました。

富樫 ひとみ

たき火で火をつけるのはこわかったので、お父さんにしてもらいました。

やきいも^はもおいしかったです。やきミカン^ははあますぎでした。

おたまじゃくしも取れたのでたのしかったです。

富樫 太志

一年間ありがとうございました

田んぼの学校に参加して

内田 君子

今年で田んぼの学校は3年目の参加となりました。これまでで一番参加出来なかったことをまず残念に思います。子供たちが成長し、学校行事や他のさまざまな活動に参加することも多くなり、その日家にいる者が参加するという形でした。作業そのものは慣れもあり、工夫もあり、加減もわかり、とても楽しかったです。

子供たちは相変わらず、作業に参加しているのか遊びに来ているのかわかりませんでした。でも、彼らなりに米作りを体験していたように思います。例えば以前は大人が手をそえて刈り取らなければできなかった稲刈り。今では自分で鎌を使い、上手に刈り取ることができます。いつの間にかシャベルで水路を掘っているのを見た時には驚きました。ひ弱に思っていた子供たちが急に頼もしく見えたものです。また、作業に参加しなくても、小さな子供たちの面倒を見ている姿は、よくここまで成長したなあ感慨深いものがありました。 子供の小

また、今年度は学校で収穫祭を開催することになり、PTA執行部であった私自身も田んぼの学校で経験したことを学校行事に生かすことができました。学校行事で稲作体験といっても、バケツ稲がやっと。実際に体験するにしても、田植えと稲刈りができればラッキーと言われる昨今、田んぼの学校では籾から芽を出させることから始まり、畔つけ、代かきなど普段できない貴重な体験をすることができます。それを通して米作りの大切さ、大変さを学びました。参加させていただいて本当に良かったと思います。田んぼの学校を主催されている尾辻さんをはじめ、スタッフ、竹内さん、参加されているみなさんに感謝いたします。

来年は長男も中学生となり、どこまで参加できるのかわかりませんが、登録だけはしておこうかなと思っているところです。

みなさんありがとうございました。

内田 竜介

ほくけにこの一年、たくさんの事を学びまし
た。三年間つづけて田んぼの学校で学び、同じ
作業を何回かやったこと、三年目の今年も
作業の名前を聞くだけで、どのようないことを
するのかわかるといふようになります。分
からない所はおつじさんには優しく教えてもら
えるし、友達と自然の中で思いっきり遊ぶの
は、とても楽しく、逆につかれかかふと飛ぶよ
うでした。今年も昨年から少し遊んでい
る時の方が多かったです。と反省しています。

どろにまみれながら田植えをしたり、よう
水路をめぐったり、多のしれない実を投げて
遊んだり、田んぼの学校で過ごした時間は、
長く短く、そして楽しかった。また来年
もお世話になると思ふのふこねからよろし
くおねがいします。

内田 晶介

ぼくは、今年で3回目のたんぼでした。そ
こで、一番楽しかったのは、いぬかりです。
さいしよは、いぬをかり、むがむ中でやりま
した。いぬの葉がかおに当たって、いぬが、
たけど、一番に、道を作りました。その後、
生き物ちつかまえました。カエルをつかまえ
て、調布ネッソテレビのカメラに見せました
そして一番うれしかったのは、トンプのぬけ
からを見たことです。田んぼで、ヤブは見た
ことは、あまかつたけど、とんぼのぬけからを

初めて見ました。ほかで楽しかったのは
しるかぎです。どろをかぎまぜるといっしょ
に中で遊んだり走ったりしました。前は
ドジョウもいました。その中でも一番楽し
かったのはどろろかぎやジャンプして、田ん
ぼに入ることでした。また、来年もたんぼ
の学校をやりたいです。

楽しかった田んぼの学校

内田 あき

わたしは、三回目の田んぼでした。一番楽しかったのは、二回目と同じで、いねがりです。なせいねがりが一番楽しかった。たかというと、いねがりは、かまやつか、たことかないものをつかえたし、
ッ
シヤ
キツ
ー
と、いう音がすごくだいすきだった。なので楽しかった。です。

わたしは田んぼの学校でいろいろなことが
まなべました。なせおにめをつくるのかたい
へんかかよくわかりました。

わたしは、また田んぼの学校でまなびたいと
おもいます。

田んぼの学校感想文

広瀬夕佳

私自身、お米の作り方が漠然としかわかっていなかったのですが、田んぼの学校に参加したことで、お米をできる工程には無駄がなく、また日本の四季に合った作り方なのだと改めてわかりました。

こどもは、お手伝いまでは中々出来なかったのですが、用水路で遊んだり、カエルを捕まえたりと今まで出来ない遊びができてとても楽しかったようです。

(編集注 メールから抜粋し、タイトルは編集者がつけました。)

田んぼの学校での一年を振り返り

2013年3月9日

沼田 貴明

私は子供達が幼年期から子供時代に楽しかった思い出を調布で沢山作ってやりたいと思っています。それはテーマパークのような商業施設での“与えられる喜び”ばかりではなく、田植え、稲刈りを大人と交じって一緒に行ったこと、誰々ちゃんと鬼ごっこをしたこと、友達と一緒にご飯を食べて美味しかったことなど自らの身体を動かすことで得られる喜びをより多く調布で経験して欲しいと願っています。

子供達にとって調布はふる里です。何年かして巣立ち、戻ってきたときに懐かしい風景、友人、近所のおじさん・おばさんを私は沢山用意しておきたいと思っています。田んぼの学校での皆様との出会いは、子供たちの心を豊かにしてくれると思っています。もし子供達を田んぼ以外の場所で見かけたら声をかけてください。私も積極的にそうします。そうすることで私自身が「近所のオジサン」としてお子さん達の記憶の片隅にチョットだけでも風景として残りますから。

尾辻さん、今年度もありがとうございました。田んぼやカニ山で遊んだこと、先頭に立って働く尾辻さんの姿は幼年期の子供たちの心にきつと残っていくと思います。

来年度も家族でお世話になります。宜しくお願いします。

田んぼの学校の存在

母 沼田 祥子

2年目の田んぼの学校。なんと、この会に入りたいと言い出した私が仕事で一番欠席した1年でした。それでも主人が出来る限り参加をしてくれて、子供達と共に貴重な体験ができました。主人一人でも参加してくれる日もあり、有難い限りです。さて、どうしてそんなに熱心に行ってくれるか尋ねたら、「尾辻さんがもくもくと働いているから」と返事が返ってきました。入学式の時に尾辻さんが「子どもは仕事はやりませんから、大人がやりましょう」とおっしゃっていたとも言っていました。

「もくもくと働く大人の姿を安心して遊びながら子供達がみている。」ということ。当たり前のことなのですが、現代では難しいことになっていることで、稲作をする目的のほ

かにもこの田んぼの学校には魅力がいっぱいで、この雰囲気は私は大好きです。

私はひょんなことから働くことになり、思いがけず学童保育に子どもを預けるようになり
ました。先日その学童のフォーラムがあり、札幌大学大学院教授、庄井義信先生の講演が
ありました。その中で、

昔の子ども達は学校で担任の先生に「元気ですか？」と聞かれると「元気です」、「今日
はお腹痛いです」と答えていたそうですが、最近では最初の子が「元気」というと2番目
の子はちょっと声をあげて「元気！」3番目はさらに大声で「元気です！！」となり、最
後には先生まで「先生も元気です！」と答えて、クラス全体がそんな気持ちになってしま
い、子ども達が常にハイテンションになり、元気でないといけない、弱い自分はいかに
おかないといけないと思いついでいるというのです。

そして、谷川俊太郎さんの詩の紹介がありました。

1部抜粋します。

「街に子どもがいなくなった日
街はなおさらにぎやかだった」

そう、田んぼの学校ではこの「なおさら ぎやか」を子供達に押し付けてはいないので
す。

余計な号令や声掛けもなく、ごく自然とはじまって、終わっていく。

だからこそ、子供達は自分たちで遊びを作り出し、虫や草や木と出会い、心から満足する
のだと思うのです。

尾辻さんをはじめ、長年この会を支えてきてくれた方々が、未来を見据えながら淡々と歩
みを止めずに活動してきてくれたおかげです。

最後にこれもまた、人の言葉を借りて終わります。

ニュースで見た

政治家

鈴木 貫太郎さんの言葉

「正直に 腹を立てずに たゆまず 励め 」

原発のこと、放射能のこと、未来のエネルギーのこと、

ずっとたゆまず、活動している田んぼの学校は私には希望の光です。

来年もよろしくお願ひします。

たんぼの学校で、楽しかったこと

小3 沼田 友和子

私は春にたんぼに水を入れ始める間に、素足で道路を走って水路をジャンプして飛び越えて、半分水が入ったたんぼの飛び込むのが面白かったです。

また来年も楽しい遊びを見つけていきたいです。

たんぼの学校

小1 沼田 和彩

お母さんに何が一番楽しかったと聞かれました。

案山子を作ったのが一番、楽しかったです。

田んぼはやっほりスゴイ！

西山 光明

今年で、親子で田んぼに参加して三年目に

なりました。田んぼのスゴイところは、何年や

ってもあまさない。新しい発見がある、新しい

仲間がでまるといふことです。

四月からお米作りが始まりました、田んぼには

色々な生物が集まり、人間も田んぼに集まり、

それを田んぼが育んでくれています。お米だけでなく

ほなく、水生昆虫や両生類、人間までも成長

くせしくい子田んぼはやっほりエライ！

田んぼは永久に不滅です。調布に田んぼの

あ子風景が残りことを願います。

続けること

西山 貴代美

東日本大震災から二年がたとうとしており
政権は自民党に戻り、原発容認の世論が台頭
してきています。田んぼの学校のあたよりの
冒頭に深くうなづきました。あれだけ怖い思
いをした原発を復活させようなんて、人々の
忘却にあきれうなりにあります。でも、人のこ
とは言えず、私自身当時実践した節電のいく
つか習慣になっ、ていないものには、
つい便利さ

や快適さに流されてやっ
ていませんでした。
行動することほもちろん、
続けることの大切
さと難しさを実感して
います。

田んぼの学校も同じです。
今年度も家の用
や子供の世話にかまけて
中途半端な参加しか
出来ず偉うなこと
は言えません。が、
参加すること、
続けることが大事と
信じてこれから
も続けていきたい
です。それが未来の
環境や子供たちが
大人になつた時
の力になると
いい
と思
いま
す。

田んぼの友たち。

西山 優菜

今年度、田んぼでわたしが一番うれしか
たことは、新しい友たちができたことです。
わたしの友たちは三つに分けられています。
一つは学校友たち。二つは交通少年たん友た
ち。ちなみに交通少年たんとは調ふけいさつ
しよでやっていて交通安全などのキャンペーン
にです。そして三つ目が田んぼ友たちです。
この友たちはとくバツです。学校の友たち

とはちがいます。たとえば、

学年がちかう友たちと遊べることと遊びで

は上ぎゅう生はわたしよりもいいアイデアを

出すし、下ぎゅう生は、いや、それはちが

と。と思うことかありますかやっ。てみると

あんがい楽しいのです。

もちつきでいっしょにたべたおもちやとん

じるはかくべつにおいしか。たです。

おまた、遊びでないことといえは、仕事です。

友たちとやる仕事はとても楽しいです。とく

に楽しいのがかかし作りです。友だちとどんなにかかしかできたか見せ合い。こするのが楽しみです。友だちのを見るとき、あゝあゝなるほど。とか、へえー。とか、あゝこの手があるたか。とくやしがるときもありますけれどね。

はっきりにわたしは田んぼに行くのが朝、行く前がいやです。でも、なせかかえる時になると、

もーかえろー。

と、言われこそ、

「ええーやたいまたここにいたーい。」

と、言いかえします。何ででしょうね。

わたしは、田んぼで新しい友たちかき
本当にうれしか。たびす。

たんぼのおもいで

四山 大老

かぶと虫のよう虫が"い"はい見れてよか

たです。

もちがおいしか"た"です。

やきいもがおいしか"た"です。

かに"た"のしか"た"です。

かかし"ず"くりが"す"です。

いえ"で"せ"で"きな"いぬ"え"ひが"い"は"い"て

よ"た"です。

いねたりのかすてです。

田 うえそすてひす。

し 2" と びす せ なの かい 17 は⁰ 11 あり ます。

田 えん と り ね かい し と かい し 15 くり せす。

たんぼのおもいで

にしやまこうき

おもちおいしかいたです。

ありがとうございまして。

かふとむしありがとうございまして。

田んぼに蒔かせた稗子2年目でした

今年はお利蒔かできずから、たかが残念で、たし、申し訳
けありませんでした。

1年目は全2の作業が初めてで、毎回感動して、下のを賞えて
います。あれだけ感動して学んだのだから、1年目の復習で
余裕... 足りて思っていました。ほとんど忘れていて、全く習得
していませんでした。

田んぼエキスポには行きた!! くらいのがんがたか、とんでき
たい 勘違いです。

環境問題を考える... ほどという事は正直 あり... いや 全然
あがってはいないのが。 どうやってお米をつくるのか... の作業工程
大変さ。 なんだんがのほ 何をいって。 7つまで使えなくて。 全て
なんだんが 生きて生活できるんだんが! と。

発見してから生きてきた昔の人ほどいいと 感じました。

子どもは作業内容というよりは、自然の中、走ったり友達と
遊んだり、虫をつかまねたり、見た事も知らない虫を見つけて
二かい肩持ちやあくあくした肩持ちを持ちスライム体験
ができたと思います。

昨年4月から5月頃に田んぼにいたザリガニはポイントに
たり 今も生きています。 脱皮もしたし、甲もうんだよう...
初めて見たのい、びっくりしたやら、肩持ちも悪いやら... でしたか
見えた良かった。 11つまで生きてくれるんだんが... と

尾はは、奥様、お世話をしありがとうございます。
田んぼの学校がたかさんへ伝えていけば
スライムだんが! と思います

大野 貞枝

おしがニあかったイダ

さいしほ 入いきだったけど。

どんどん おおきくおってきたら

こわくおりました。

ガリガニは まだいきています

たのしかったイダ

おおのいほうあけ

田んぼの学校の授業に参加して

田原 晋介 (父)

田んぼに参加するようになり、よその田んぼ、畑、に目が行くようになり、大したことでもないのに1人前の農夫になった気でいます。

最近、収穫されず放置され枯れている野菜達を目にするようになりました。今まで目に留まることもなかったのに、農夫は気になるのですね。

なんだこれは？何百本も放置される畑を初めて目にした時は、なぜ放置されたのだろうか、世代交代が進まないのかな？とと思っていましたが、同じ光景を何度も目の当たりにすると、市場に出せない色んな事情があることを知りました。米作りに参加して農業がどれだけ大変かがわかってきただけに、丹精込めて育てた野菜が理不尽な理由で廃棄されることは悔しいだろうなあ、と残念な気持ちになります。

田んぼの授業で、米作りでは捨てるものがない！と教えていただきましたが、それはすごい事なのですね。物を消費しないと経済が潤わないという現代事情があるにせよ、一連の作業で無駄が出ないことがあるってことを「知る」ことが貴重な体験だと感じています。

田原 早希子 (母)

田んぼの授業に参加を始めてから、義父が幼少期に田んぼの手伝いをしていたことを知り、実際にどのように行っていたかを教えてもらうようになりました。田植えは大人数でやらないとできない為、その時期は、今日はこの家、明日は隣というように、全世帯の田植えが終わるまで、近所で力を合わせて毎日やっていたとのこと。家の女性は作業の間に全員分の食事を用意し、終わった後は皆で食べたのだと。「お互いさま」とはまさにこういう事なのだと思います。

今は、誰かに何かを頼まなくてもお金を出せば何とかなる時代になり、いろいろな代行サービスが成り立っています。しかし、人と関わらない生活をしていると、人に合わせること、一緒に何かをする事が次第におっくうになってしまいます。田んぼの授業を通して、多くの人と「共同作業」をするということは、生きる上で必要な、とても大切なことだと感じるようになりました。自分だけよければいいのではなく、皆で力を合わせ自分も惜しまず動く、そういうことが自然にできるよう、まずは親である自分がやってみせて、子ども達にも伝えていきたいと思います。

今年度はほとんど作業に参加できませんでしたが、それでも、1年を通して参加できてよかったです。来年度はもっと積極的に参加したいと思います。

田原 大悟 (5歳)

かに山のデイキャンプで木登りが出来て嬉しかったです。また行きたいです。

「田んぼの学校」での12か月間で学んだこと

H25.3.10 藤井一輝

「田んぼの学校」での授業は2年目になり、今年も家族3人で参加させていただきました。

一番強く感じたことは、田んぼを中心にした地域の結びつきが少なくなっているのではないかということです。今は自治会の組織率も全国的に低下、核家族化が進んでいて、地域の結びつきがかなり弱くなっています。昔は自然が多く残っていて、田んぼを持っている農家では、自治会や水利組合でのつながりや、公民館や地元の神社での行事など、地域での結びつきを強める機会が田んぼの一年間の流れや季節の行事ともからみあってたくさんありました。お花見や5月5日の子どもの日には近所の駄菓子屋が地元の子どもたちにお菓子を配ってくれていたりもしました。そして夏祭り、収穫を祝う秋祭りと子どもたちの遊びと地域の行事とが繋がって、親・子・祖父母の三世代のごつながりも強かったように思います。

「田んぼの学校」では、子どもたちが、自然を通して学ぶだけでなく、両親以外の地域の親世代、子育ての終わった祖父母世代の方々からもいろいろ教わる機会も持てて、実際の田んぼの作業はそっちのけで遊んでいることが多かったのですが、楽しく関わることが出来たと良かったなと思っています。

個人的には、炭焼きキャンプで全く何もないところから火をおこすことが難しかったです。家族だけのバーベキューでは着火剤を使ったりしていたので、自然と真正面から向かい合うことの大変さを体験することが出来ました。

また縄緬も難しかったです。去年は参加できず、今年初めて参加しましたが、マンツーマンで教えていただいても、なかなか校長先生のようにうまくは出来ませんでした。でも、田んぼでとれたもの、米だけではなく、藁も全て生活に生かすということは学ぶことが出来ました。藁は燃やして焼き芋を作ったりしてもいいのですが、手作業を加えて緬うことでしめ縄や草鞋、長靴なども出来るのですから・・・環境の問題が叫ばれている今の時代は、自然に今あるものを使って無駄なく再利用するというのが一層求められているのかなと思います。

またコメ作りには土づくりがとても大切なことを学びました。ただ、今は放射能汚染の問題があり、腐葉土も安心して肥料として使えるかどうか心配もあります。作業としても堆肥の天地返しは本当に重労働ですね。もちろん売っている配合肥料はあるのですが、一から作るのは大変です。でも子ども達の喜ぶ天然のカブトムシやホトケドジョウ、ホウウネンエビ等が生息するすばらしい環境はいつまでも守っていかなければならないと強く思いました。

また来年度も出来る限り出席して「田んぼの学校」で学びたいと思います。よろしくお願ひ致します。

藤井 紀子

田んぼの学校を無事 2 年間過ごすことができ、皆様にいろいろとお世話になりありがとうございました。今年度は、昨年より前半は娘が体調を崩したり、用事が重なったりで参加をすることができなかつたのが残念です。しかし、田植え、夏祭り、稲刈り、収穫祭、デイキャンプと一年の行事に参加することができました。

今年度は余った苗を頂いて、近所に住む姉と職場と自宅でも発砲スチロールで、小さな田んぼを行っていました。自宅の田んぼは、田んぼの学校の土を頂いて帰り、よく日が当たる場所でしたので、立派に実がなり穂が垂れ下がっていました。姉のところも、土を分け足りない部分は補足して育てていましたが、よく実ったところとそうでないものがありました。これは日光の影響だと思いました。職場は、土をお店で購入しかなりスカスカの土壌のまま行ってしまい、実も細いものとなり、職場の方たちとの収穫前には雀のエサにかなりなっていました。

この体験から、改めて土の大切さを身をもって実感しました。今日午前中に、行って下さった重労働である堆肥返し、堆肥を混ぜることの重要性、その堆肥返しの中にいた大きなカブト虫からも、とてもいい栄養が詰まった堆肥であることを認識しました。

放射線の影響で、子ども達が参加できないことが残念です。一昨年は、娘も堆肥返しに参加して、カブト虫の幼虫を宝探しのように行っていましたから・・・。

以前、土を田んぼが出来る土にするまでに 3 年はかかると話していたのを思い出し、地盤を固めるではないですが、基礎である土台、その中の栄養分の大切さと日光が作物の成長のカギであり全てなのだ、改めて認識したものとなりました。

昨年の堆肥返しで頂いたカブト虫の幼虫は、5 匹中、3 匹がさなぎになりました。2 匹はカビが生えてしまい成虫にはかえらず、一匹だけメスの成虫に孵（かえ）りました。たまごを孵したいと思い、昨夏は、自由広場へ早朝カブト虫のオスを捕りに行ったり、その後も夫が近所の公園から何匹かカブト虫を捕ってきたりとたくさんになり、娘は夏休みの宿題で標本にしました。カブト虫の一生を図鑑やインターネットで家族で調べたり、私自身虫を育てたことがなかったので、娘と一緒に発見の連続でした。カブト虫を売っているこの時代に、貴重な体験を与えてくださったことに感謝します。

卵を孵すのを目標にしていたのですが、結局孵らず、堆肥返しに参加した夫がまた幼虫を持って帰ってきています。

田んぼの学校での活動自体は全参加できなかったのですが、そこから波及して家庭でも周りにも少しずつですが広まり、そこからの気づきも多い一年となりました。

子どもたちの遊びも広がり、一時期基地づくりをしたいと話したり、子どもだけで遊びを考えたりと成長を感じました。

娘も来年度は、3 年生になり家族と過ごせる時間を大切にしながら、一緒に取り組める田んぼを続けられたらと思っています。尾辻夫妻はじめ皆様今後ともよろしく願います。

一年間ありがとうございました。
キャンプでは、まえより火おこしができて、
うれしかったです。ほかの友だちと、ひみ
つき地みたいなところであそんだのもすっご
くたのしかったです。あと、このまえ、自
分おりになるのわらじを作ったのもたのしか
かったです。2そく作ったけれどさいずがあわ
なくてさんねんてした。こんどは、ほんもの
の、わらじを作りたいなと思います。
あと、自分たちの友だちをよんで、おにご
こをしたのがたのしかったです。あたしのい
とこもたのしそうにしてくれてうれしかった
です。自分でいところをよんでよかったなと
思っています。ことしもたんぼをやりたい
と思います。

藤井

悠奈

7. 総括報告

「野川で遊ぶまちづくりの会」

代表 尾辻義和

「田んぼの学校」という形で再スタートした、「野川で遊ぶまちづくりの会」の「米つくり」も第12期を終えることになりました。今年度の参加者は11組、総勢40名以上となりました。また、一昨年3月11日に発生した東日本大震災と、その地震と津波による福島第1原子力発電所の重大事故の発生で、放射能汚染拡大があり、調布でも放射能汚染が現実のものとなり、田んぼの作業に少なからず影響が出ています。

田んぼの作業は毎年同じ作業の繰り返しですが、同じようにできる事は減多になく、目が離せません。今年度は、生育は順調で、玄米にして140Kgほどを収穫しました。

今年度も、参加して頂いた方々には感想を書いて頂きましたが、「田んぼの学校」の趣旨がきちんと伝わっている事にたいへん嬉しく思っています。ほとんどの皆さんが継続して田んぼをやりたいと言っておられ、かといって、新しく応募される方にも加わっていただきたいとも思っているため、耕作面積は何とか増やしたいと今後も行政など関係する方々をお願いする次第です。多くの市民が集まって行うため、以下のような問題も放置できなくなりつつある状況にありますので、行政に少しでもご配慮いただければ幸いです。

- (1) 手洗いやトイレ（現在は、竹内さんの設備を使用させていただいている）
- (2) 休憩場所（竹内さんの敷地や道路を使用している。特に道路は子どもたちが遊んだりするため、通行する車に迷惑を掛けている）
- (3) 道具類の置き場所（現在は、竹内さんの納屋などを使用させていただいている）
- (4) 農器具が老朽化（耕運機、粃摺り機）しているため、壊れるおそれがあるが、代替の機械がない。
- (5) 水田を維持したり、ホタル生育の環境を維持するために、環境用水としての井戸を掘り、水量の維持を図る。

他にもスタッフ不足など問題はありますが、地域の方々の助けを借りたり、ちょうふ環境市民会議のサポートをいただくなど、少しずつ前進していきたいと考えております。皆様のご指導、ご協力をお願いして、総括とさせていただきます。

以上

8. 付録

発 行

2012年3月31日

野川で遊ぶまちづくりの会

代表 尾辻 義和

〒182-0016

調布市佐須町2-22-2

電話 042-487-4385

Mail otsuji@y.email.ne.jp

URL <http://nogawa-tanbo.sakura.ne.jp/>